

一、馬頭神社はもと茅屋根であつたのを青年處女の遊びながら煙草の吹殻から失火して焼失、その後小野津部落民の頓着する者なし。宇内の馬が多数死亡し又長男友和上臈醫學にいそむに半途にして病死、同地に埋葬してあつたのを改葬のため上臈した(三回目)。この際自辨を主に馬頭神社の石當をお供して歸島現在の地に御祭を營む。其の後馬の死することなく部落民は非常に喜び敬仰す。因に長男友和は學半にして夭折したが、二男奥和、三男壯哉あり、この神社は友和の長男榮雄が神主となり、次に奥和が神主につきその死するときの遺言によつて現在神田長良氏が神主をつとめてゐる。

泰 イシマツ氏

1、行年 五十七歳、明治廿七年舊十二月廿九日死亡。

2、業 農業。

3、略歴

イ、信仰家

ロ、五十歳の時當部落の八幡神社荒廢の状態にあるを歎じ、自費を投じて八幡神社境内を整理す。

ハ、神社創建

(1) 八幡神社井戸設立

明治十九年九月廿三日より同月廿五日迄の入費として金五圓奉寄進。

(2) 八幡神社外廻石垣積み

明治廿一年八月廿三日より九月一日迄の入費として金七圓參拾錢寄進。

(3) 八幡神社御堂設立

明治廿二年舊五月六日より同年同月廿七日迄建築造營費として金五十七圓貳拾參錢奉寄進。

(4) 建築完成 明治廿二年五月廿八日。

◎世話人 秋善積氏、良榮質氏。

◎補助人 備長良氏、勇行榮氏。

保 實憲氏

1、行年 七十五歳、大正十一年十二月八日死亡。

2、業 農。

3、略歴

イ、獨學にて學問研究をなす。

ロ、中督、長、三島先生の寺小屋教育時代は己の住宅を教場に提供。

ハ、長機を子供のため内地より下し研究し部落内に擴める。長機の始め。

ニ、多藝多能。

ホ、村の青年處女に太鼓の寄附度々あり。

ヘ、本部落は砂糖を早町港より荷出せしも島廳の役員と連絡し本港に寄港荷出なさしむ。

ト、石垣積の名手たり。

チ、八幡神社垣の最初の作者。

リ、道路の開通

マツキユウ道は此の方によつて開通さる。

三 島 玉 淳 氏

1、行 年 六十四歳、明治四十四年十一月廿六日死亡。

2、業 農教師。

3、略 歴

一、寺小屋にて勉學。

一、大島小湊方面の農教師。

一、早町部の勸業員を務め、公衆のため盡力されし由。

一、村會議員（喜界島聯合村會議員）を務む。

一、三島玉富の二男に生る。兄玉英灣假屋に勤め弟玉丈鹿兒島に遊學、以て家を守り多くの雇人と家業に努む。三十歳にして分家其の頃弟冲名學校の先生となるや就て學ぶ。後村會議員に推され農教師を勤め選ばれて大島本島小湊方農教師と爲る。乗馬園藝に興味あり馬匹園藝を奨勵し、ことに柑橘の接木に長ず。同家表通石垣は字民の謝恩奉仕なり狩獵も特技にして、

「前金久田袋に白鳥が下つりよ、前金久玉淳主に語て射らそ」
の歌あけて人口に膾炙せらる。

三 島 玉 丈 氏

1、行 年 七十四歳、昭和五年十二月十九日死亡。

2、業 教員及醫者。

3、略 歴

一、簡易小學校卒業。

一、灣小學校にて講習受講、當時小學校教員の免狀を受く。

一、志戸桶オキナ小學校教員拜命。

一、鹿兒島にて醫學研究、同醫師試驗合格。

一、左記個所にて醫師開業。

イ、小野津及志戸桶。

ロ、沖繩にて約九年。

ハ、徳之島にて約四年。

氏は國漢學に長じ漢詩をよくす、小野津校庭の濱上翁の碑文は歷則有兩氏の作。漢詩は本人の作。

小野 直 心氏

小野直心小野賀昌の息であつて、故濱上謙翁の從弟に當る。直心は文久二年八月生に生る。幼時嚴父の教導を受け、長じて軍門に入る。明治二十七八年日清戰役に從軍して戰功ありしかば、同二十九年二月七日勳八等瑞寶章及金參拾五圓を下賜せられ、三十四年三月陸軍歩兵少尉に任官して正八位を授けられ、三十八年一月中尉に昇進して從七位を載いた。それより前、第三中學校履教員となつて師範學校中學校體操科（兵式體操科）の教員免許狀を受け（三十四年二月廿六日）卅四年四月には鹿兒島縣第三中學校（今ノ加治木中學校）助教諭となつた。三十七八年の日露役には再度出征して戰功を立て三十九年四月勳六等單光旭日章及金二百圓を下賜せられた。大正十二年十月一日普通恩給年額六百八拾貳圓を得て鹿兒島に晩年の居を定められ、大正十五年六十五歳を以て不歸の客となられたのである。

曆 則 有氏

小野津村則安長男として孤々の聲をあげたのは明治二年舊六月十九日であつた。幼少の頃灣小學に學び、更に名瀨に遊學して明治十八年十月鹿兒島縣管内に於て初等科教員たることの免許狀を下附されたが、教職にはつかれなかつた。

明治二十四年八月長崎縣巡查となつたが、廿八年十月臺灣に渡つて彼地に職を奉じ、後臺灣總督府通譯官として臺灣守備混成第二旅團附となつた外、軍事壯丁國語學校教官、宜蘭廳語學院授業囑託、南投廳警察官吏學術講習講師となるなど、本職の傍ら幾多の事務に携はつたが、明治四十五年三月依願退職して恩給を受け歸郷して閑地につかれた。されど當地でも第二次港灣開墾事業を起して港口を開墾し、海運の便を計るとか、濱上翁の遺骸を鹿兒島南林寺の墓地から上黒盛の墓地に移し葬るなど、其の成した仕事も尠くない。然れども天は彼に時を貸さず五十二歳を以て大正九年八月十日永眠されたのである。

三 島 當 明氏

1、行 年 七十六歳、大正十五年 五月二十三日死亡。

2、業 書記。

3、略 歴

一、寺小屋にて勉學。

一、澗及早町の用係。(書記)

一、元早町部勸業員。(當時公衆のため多大の盡力ありし由)

その頃己に四人の男子を皆遊學せしめし教育熱心家。長孫徹君大阪に在るや老年態々上阪激勵、其の折一日濱寺海水浴場にて、一人の孫を一匹の驢馬に乗せ、己れ茶亭に端坐(端坐はこの人の名物)して慈光滿面、莞爾として、しつかり、しつかり。

又一杯氣嫌になれるとよく彼の實語教の文句を誦して「倉に千兩の財を積むとも一日の學に如かず、一日の學に如かず、ホントダヨ」と。

赤崎 萬藏氏

1、行年 不明、死亡年月不明。(約九十五年前)

2、業 醫者。

3、略歴

一、鹿兒島縣揖宿郡より遠島されし由。

一、其の後小野津にて醫師として多くの島人の賞讃を受くる名醫となりし由。

磨 奥和氏

行年 七十一歳、大正九年舊七月二十日死亡

保食神社に神官として篤く仕へて一生を終へたる體軀偉大性活淡よく人を笑はせし好々爺さん。石灰を焼く技術に長ず。

野にも、山にも、海にも生々化々、(カニクワマンドリ……の歌はこの人の名曲)

勝 芳哉氏

1、行年 三十一歳、明治四十年舊九月廿九日死亡。

2、業 醫師。

3、略歴

一、中督覃要先生より漢學の教授を受く。

一、明治三十六年内務省施行の醫師試験にて免狀を受く。

一、醫師開業。

小野津二年餘、古仁屋にて一年餘。

一、大島古仁屋(タケン)にてなくなる。技術拔群其の名郡内に轟きしと。

上 督 實 碩氏

1、行年 五十五歳、明治四十四年舊九月十四日死亡。

- 2、業 世話人。
- 3、略 歴

- 一、簡易小學卒業。
- 一、能書家との世評あり。
- 一、世話人。(約三年)

堅 時 英氏

- 1、行 年 五十九歳、大正九年四月十二日死亡。
- 2、業 稅務屬。
- 3、略 歴

- 一、獨 學。
- 一、灣役場雇員。
- 一、大島々廳雇員。
- 一、同 稅務屬。
- 一、南洲丸事務長。
- 一、沖繩縣稅務屬。

堅 昌 信氏

- 1、行 年 三十八歳、大正九年八月三十一日死亡。
 - 2、業 巡査。
 - 3、略 歴
- 一、高等小學卒業。
 - 一、熊本工兵六大隊服役。(工兵伍長)
 - 一、大阪及臺灣新竹州にて巡査拜命。
 - 一、右巡査にて恩給を受く。

南 島 豊 川氏

- 1、行 年 五十三歳、大正十五年三月十三日死亡。
- 2、業 軍 人。
- 3、略 歴

- 一、簡易小學校卒業。
- 一、大島興業株式會社にて見習中勉學をなし、十八歳にして海軍志願、再役十二年にして海軍二等下士に任官。

一、同右にて恩給を受く。(年額二九〇圓)

○氏の鯉の生きさしみは有名、又詩吟に長じ特に捨子の剣舞は得意なりし。

求 義 要氏

1、行 年 五十八歳、大正十四年三月十六日死亡。

2、業 巡 査。

3、略 歴

一、簡易小學校卒業。

一、大島興業株式會社の理事を務む。

一、沖繩縣には商業傍勉學、沖繩巡査試験合格。

一、同巡査拜命。

この人今朝鮮在の三島所長が沖繩師範訓導をする時「君、郷里へ歸つたら小野津の海岸(タマナハ)からサダネ、それからフーズのはなばなからビンズンのはなばな、松の木を植えてきなさい、森林になつたら共に漁業でもやろ」と云はれたとか。

登 玉 明氏

1、行 年 七十七歳、昭和五年七月八日死亡

2、業

3、略 歴

大正七年曆則有、大島紬工場建築後續いて工場を多數設置し、産業方面開發に努力せり。古くより中として前金久の重鎮事業に對する決斷、判斷宜しく當時舊習を破つて早町に又灣に移轉、今の岩倉氏に大をなさしめたるもこの呼吸が基となつて居るだらう。

今 家 文 慶氏

1、行 年 六十九歳、昭和十二年九月十一日。

2、業 大工、八幡神社はこの人の建築、彫刻又上手なり。

3、略 歴

イ、内地到る處巡業。

ロ、大島本島龍郷村よりカライモ(赤ブネ)を當部落に移殖さす。それが小野津及本島に於ける赤ブネの始めてある。(大正十年頃)

ハ、漁業發動機船を設けたるも計劃通り行かず。

ニ、祖先の墓地に資本を投じて崇祖範を示す。又歌の名人。

三 島 行 義氏

- 1、行年 五十四歳、昭和九年五月五日死亡。
- 2、略歴

- 一、獨學、十四歳にて出郷、鹿兒島師範附屬小學校卒業。
- 一、大島稅務屬、沖繩にて新聞記者。
- 一、朝鮮にて郡長任官。

氏は頭腦明晰、理性の勝つた人。而かも經綸家、よく若い時より神宮のサダネに牧場を目論見て居た人。朝鮮にては京城に土地を買ひ郵便局を開局、近く歸郷、郊外生活の大計劃を立てたりしに惜むべし。

山内源 適氏

- 1、行年 五十八歳、昭和五年四月二十七日死亡

- 2、略歴 小野津簡易科卒業。後渡鮮、朝鮮總督府、專賣局に多年勤務郷土ノ士に渡鮮の道を開きし

恩人。

文政 禎氏

- 行年 七十九歳、昭和九年十月五日死亡。

家名を「ソントー」と云ひ、七名の弟妹を親に代りて世話し、子女の教育に苦心、聯合村會議員に選ばれる事九度、色々公事に多忙を極めた見え、卅餘歳の辭令を秘めてありし。老後は池の水の音を友とし、

「ソントー」の爺さんとして自適。最後一人住ひとなるや「乃木大將」といつて、よく大將の額をかけたものだ。壯年の頃馬が好き、ヒインドウ馬、ヌドウトユアウマーは有名。病氣の時としま丸で十島の一家が直航して、小野津港にブーと鳴らした時は、病床で聞いて嬉しかったと。二度目の時は東京へ行く途中鹿兒島より歸島せしに、一日丈け看病させてから、船便があつた所が「一人の命より十島三千人が大事だ」とすぐ立てといふて立たされた。としま丸補助、一萬二千圓から二萬圓になつたのはこの言葉のお蔭である。東京より土産を買つて神戸から名瀬まで来た時は、知らせの電報は旅行先きで迷ふてもう四五日も経つてゐて、家に着いた時は丁度一週間目で、親類一同が揃ふて居る時であつた。生前まんなしように踊り、メンシヨリ、ケ、ケ、はよく人を笑はせた、元氣な踊りだつた。

中督 毅氏

- 行年 三十五歳、昭和九年十月二十一日死亡。

生來蒲柳の質なり、小學校卒業後郷里に在りて趣味の音楽、魚釣細工に精勵し、斯道に進歩したる跡を止めたり。「ヒコオチ」の名は喜界に通ず。鶏のけんくわのまねなどは彼の妙技なり。

盛岡平 熊氏

- 行年 三十四歳、大正十四年十二月二十日死亡。

中堅人物として活躍、村會議員として村政に頭角を現しつゝ居りたるも魚釣中舟轉覆し港口にて溺死す。

勤勉努力家にして勉學に努め、夜學を盛におこして子弟の教育に貢獻すること少からず、歩兵上等兵にて在郷軍人會の役員として盡しその不慮の死を惜まる。

園部 知親氏

行年 四十八歳、昭和八年八月三十日死亡。

明治卅七年十一月本縣巡查第六十七期生。大正四年退職其の間明治卅八年一月六日日露戰爭には從軍、武勳輝き明治三十八年十月勳八等瑞寶章を賜ふ(一時金八十圓)。大正四年退職後は部落にて青年處女の指導に當り、青年團旗製造、雁股公園、道路、橋梁等勞力奉仕や其の他各方面に盡力ために部落青年處女より屋敷の石垣を築造寄贈さる。

三島 顯義氏

行年 十五歳、明治三十二年八月二十三日死亡。

鹿兒島造士館在學中夭折、秀才を惜まる。

小野 昌寛氏

行年 六十七歳、昭和十三年舊二月二日死亡。

幼時覃要先生より學習、明治三十六年、七年海員生活以後四十三年まで大阪府警官。歸郷後は實業傍はら部落民に法律智識の開発、火藥取扱指導等をなし、大正十一年二月十日より昭和二年に至る。再度大阪府

警官として、斯界でも氏獨特の老練振りを發揮して、その智能の餘裕を示し、後遞信局に轉じ、更に歸郷農事にいそしみて、老後の元氣を仕事に氣焔に示してゐたが急に病卒惜しむべし。

能松 行實氏

1、行年 四十五歳、昭和三年四月二十七日死亡。

2、業 教員及役場吏員。

3、略歴

一、大島農學校二年修業。

一、沖繩縣國頭郡役所書記。

一、同國頭キジヨカ小學校教員拜命。

一、喜界役場の書記。

一、氏はよく人を笑はせる人、或る時砂糖小屋でキビの汁を貰ふて飲むとき、ネブがなければマカリデよい、ネブ、マカリ〜と笑はせし。

保兼 賀氏

行年 三十三歳、大正十五年十二月九日死亡。

大正七年本縣師卒、名瀨校を経て小野津校へ任命、精勵校務に盡力しつつ、ありしが急に若くして逝く、惜

しかりし。名瀬在職中、大島中學の柔道師範をなす。

岡 嶺 治氏

1、行 年 三十九歳、大正十五年二月三日死亡。

2、業 教 員。

3、略 歴

一、明治四十一年 月 日 灣小學校准訓導

一、明治四十五年三月正教員免許狀

一、同年早町校訓導拜命。

一、龍瀬校、小宿校、西仲勝校、坂嶺校、小野津校に奉職（約十四年餘）未だ働き盛りなりしに早かりし事よ。

澄 單 碩氏

行 年 六十歳、大正十三年舊四月二十八日死亡。

世話人約三年字のため盡力さる。

勇 喜 久 榮氏

行 年 四十六歳、昭和八年舊六月廿日死亡。

世話人として島の事務に携はる、氏は浪花節が上手であつた。

吉 岡 實 亮氏

行 年 四十六歳、昭和十年舊六月七日死亡。

世話人として字のため長く盡力す。

西 兼 禎氏

行 年 三十二歳、大正元年舊十一月卅二日。

一、中督單要先生より學習手習を受く。

二、明治三十四五年の頃世話人となり部落發展につくさる。

保 武 義氏

行 年 三十一歳、大正十一年七月二十五日死亡。

本縣師範卒後、川邊櫻山校を振り出しに小野津、坂峯、名瀬、最後に肝屬、野里校、腕ある校長と信頼され、同校の刷新途中病に斃る。當時準校葬みたいな周囲の懇情は今も同家の感激。其の後父豊綱氏はその代り「我が創に／＼旗を持たせる」といふてゐた。大正八年「黒潮と大島文化」の論文は縣教育會より一等當選。病氣の時かれ悟れりの座右の銘は今額にあり、修養の参考にもと、こゝに記せば、

ニコニコ主義座右銘

- 一、今日一日三つの恩を忘れず不足の思をなさぬ事。
 - 二、今日一日腹を立つまじき事。
 - 三、今日一日嘘を云はず無理を爲さぬ事。
 - 四、今日一日人の悪を云はじ己の善を云はざる事。
 - 五、今日一日の存命を喜び稼業を大切に勤むべき事。
- 右は今日一日の慎にて候、保曙星、小生病を川邊郡櫻山尋常高等小學校に得て歸省の途、鹿児島に滞在中右の教へを受け大いに裨益する所有り。生涯一身の座右の銘となし研磨せん。大正七年四月六日、櫻山校轉任、出郷第一週年當日。

磨 顯 龍氏

- 1、行 年 四十歳、昭和三年十月八日死亡。
- 2、業 海 員。
- 3、略 歴
- イ、高等科卒。
- ロ、二十歳の頃より海員。
- ハ、二十有年苦闘、一等運轉士合格。

ニ、福榮丸一等運轉士。

ホ、千葉縣犬吠崎沖合にて難航（遠洋航海）豫備舵作業中重傷。
ヘ、栗林汽船會社、社葬さる。

台 司 榮 市氏

行 年 三十歳、昭和十年二月十九日死す。
十九歳の時上京獨學、法科大學夜間部卒業。
君は文才に長け特に民族、民謡研究に興味を持ち、東京にては、博士や華族の宅とも自由に往來し研究の便を得、又鹿児島新聞社の鯨坂編輯長ともおつこん、氏の歸鹿兒するや記事ののらんことはない程の信用と、地盤を獨自にて開拓。郷里にては應援團長として輕快美妙の特技にて衆人を喜ばし、よく人をホーラシヤさせる性質。大阪にては「馬は乗手を得た」といふ本の字と、繪とに達筆を揮ふ。大なる抱負經綸を胸に秘めたりしか、惜しむべし、年の若さを、仕事させずに、こんな變り種子を。

中 督 熊 吉氏

行 年 三十五歳、昭和十三年舊八月廿四日。
高等科卒業後上阪、淡路警察署給仕より巡査合格、神戸在職八年、巡査部長として活躍、病氣退職。再度活社會乗り出しを計劃せしも、遂に病に斃る。學校サイレンは同氏の奮發になる。

野村 榮 質。(舊姓良)

行 年 七十一歳、昭和十三年舊三月六日死亡。

字の役員(區長)として盡力、後 小野津のトマイのヒラキ店の主任として、廿二年も勤績(早町通算)字の商店員の先輩。

○今上天皇陛下御大典の時全國八十歳以上の高齢者に御下賜金と天杯とを賜りし時の本字の光榮者

氏 名	備考	年 齡	氏 名	備考	年 齡
勝 禎 秀	玉積父	八二	梢 ツル	喜美生母	八〇
中 督 圭 水	龍進父	八〇	賦 イシ	元一郎祖母	八〇
稻 則 武	直友父	八二	更 エカ	隆榮母	八九
小 野 ナベ	昌照養母	九〇	西 マンズル	兼彦祖母	八六
橋 イシ	元慶母	八七	都 カネ	都マツ母	八四
都 マツ	豊廣母	八六	能 松 ヲメト	行實母	八一
關 チヨ	常哉母	八一	調 イシ	尾チヨ母	八一
明 石 オト	常要母	八一	保 セン	實益母	八〇
中 コハイ	親二母	八一	三島 マンズイ		五十八母 八〇

◆ 部落役員表

年 度	區 長	世 話 人	村 會 議 員	神 宮 青 年 會 長	神 宮 婦 人 會 長	神 宮 事 務 所	主 なる 事 業	備 考
明治一三年				前金久	前金久	前金久	土地改正を行ふ	此の以前米一升五錢位 塾生として勉學 豚の子は穀物五、六升 と交換
一四年								
一五年	三島 常明	中督 善禎	田畑 善禎		盛謙 要宅		土地改正を行ふ	三月十九日掛宿郡 浦肥甚四郎氏所有 永徳丸乘組員救助 特に文政組員鳥司 り表せらる
一六年	岡廻 榮丹誠	同	同		同			事務所は神宮二ヶ年前 金久一ヶ年交代に決る
一七年	同	同	同		求 義 要宅			
一八年	田畑 善禎	同	同		港 實 要宅			
一九年	尾廻 眞丹悦生	同	同		森本 常政宅	土地改正を行ふ		大凡のため諸穀料、種 穀料の配當を受く
二〇年	文畑 政禎	田畑 善禎	田畑 善禎	政禎(聯合村會議員)	同	同		
二一年	同	同	田畑 善禎		同	同		聯合會議員、戸長時代 六號に分擔

二二年	同	文畑 政績(聯合村會議員)	賢行 積宅	製糖木車が鐵車に變る	砂糖一挺三圓位
二三年	三都 正政 要則	文畑 政績(大島郡二百四十七村の聯合會議員)	岩尾 池明宅		
二四年	三都 正政 要則	同			
二五年	三都 正政 要則	文畑 善績(政績聯合議員)			
二六年	登都 伯政 明則	同	基 政愛宅	競馬廢止此之頃	沖名簡易科小學校
二七年	三都 正政 要則	文畑 政績(聯合村議員)	富 宮益宅		
二八年	長諫 正之 豐	三島 政績 玉淳	秋 則民宅	土地、豪嶮改正、縣知事より海岸松配布共有地に植林	左髪結變つた簡易科創立後廢止
二九年	岩尾 德秀	文畑 政績	港 成迪宅	續いて植林	
三〇年	丹都 安文 生	三島 政績 玉淳(聯合議員)	港 武榮宅		凶荒貯蓄始る
三一年	都石 豐安 文生	文畑 政績(聯合村議員)	港 武榮宅	喜界學館	
三二年	香山 正榮 心	同	港 武榮宅	堅辰生長田子橋を作	

三三年 文畑 豐生(外七名) 政績(聯合議員)

舊村議 井戸に金車懸け始める

三四年 盛 榮 任 照 文 政績(聯合村議員)

基 芳 瑞 宅 暴風のため赤貧者の救助願を大島々司福山宏宛に呈出

三五年 重 田 實 積 同

二十五人位に一人の船員、他は皆農

三六年 高 岡 常 有 同

三七年 登 西 伯 兼 明 誠 文 政績(聯合村會議員) 津田 理 榮 保 豐 綱 宅 青年會創立 埋葬の初り 秋月則榮氏 青年會創立に努力す

聯合村會議員總數八名

三八年 西 島 元 行 實 津田 理 榮

三九年 岡 田 部 仁 英 忠 岡 藤 豐 國 田 部 仁 英 秋 月 則 榮

四〇年 岡 田 部 仁 英 三 島 行 實 秋 月 則 榮 武 田 良 榮 秋 月 則 榮

此の頃から 小學校の 指導を始む

登 月 則 道 宅

合村

一二年 野村 茂照 同 西 榮 吉彦 西野 盛村 平熊 大村 豊七宅 前金久大火事、道路改修の時仕事平均料を工夫す 職工(住友防備會社)として多數出郷す、其の後漸次出郷者多くなる

一三年 岡石 浦喜美 長西 都盛 政元 豊平 之理 生熊 登西 則重 道市 三山 岡田 五十八 三山 岡田 五十八 岡 明篤宅 自大正十三年區長制度至大正十四年

一四年 岡 明篤 同 吉山 泊利 同 三山 岡田 五十八 岡 明篤宅 神宮場揭示板設置 夜學獎勵 區長と世話人兼務一名乃至二名立つ

昭和 一五年 吉山 泊利 同 吉山 泊利 同 岡 明篤宅 小野喜元氏始めて製糖機械を立、股設機、製糖機購入並に蘇鐵植、安田カネ米國よりミシン購入

二年 小野 喜元 同 小野 常進 小野 喜元 博石 よし宅 校外運動場設置 ヤギンシル1全廢

三年 高田 武常 三島 五十八 忠思 都田 豊良 豊生 高田 武常 小野 喜元 益田 義廣 明石 保正宅 棧橋工事竣工 小野喜元氏始めて製糖機械を立、股設機、製糖機購入並に蘇鐵植、安田カネ米國よりミシン購入

四年 岡 明篤 同 尾崎 隆助 澄澄 大井 まつめ 岡 明篤宅 奉安殿建設 吉山泊利始めて製糖機購入

五年 秋月 田巽 同 川畑 春則 西野 島 元輔 明石 浦喜美宅 この頃より山燒始まる、又岡田部仁英氏大増田安廣氏蓄音機購入

六年 高田 武常 三島 行西 同 花田 高田 武常 西野 島 元輔 明石 浦喜美宅 雁又公園修理、肥育牛始まる(防風林貯糞獎勵)

七年 高田 武常 西 榮 吉 武田 都月 豊良 生熊 池田 幸吉 中 幸吉 勝徳 玉哉宅 學校東側便所へ密附建校、修理、サイレン建立、處女團旗制定

八年 池田 幸吉 同 川畑 幸吉 中 幸吉 同 學校東側便所へ密附建校、修理、サイレン建立、處女團旗制定

九年 池田 幸吉 同 川畑 幸吉 尾崎 岩助 尾崎 岩助 同 前金久排水工事(千七百餘圓)八幡神社(石垣完成千餘圓)肥育組合設立 保崎里成始めて井戸ポンプ使用

十年 宮本 芳太郎 同 勇本 芳太郎 尾崎 岩助 同 伊實久行道路擴張 前金久大火災 消防組合設立 私立消防組合設立 園田部仁英氏始めて薄荷栽培 都利氏製米機購入

十一年	宮本 隆助 芳太郎	武田 良攝 西田 榮吉 池月 幸吉	安田 繁二 尾張 良一	光井 元之 岩本 清隆	神宮支部新築 勝 玉哉宅	神宮支部事務所新築 區長制定實施サル (任期四年) 農事小組設置、神 宮護岸工事、水車設 置(岩崎時義氏)	神宮交代(備氏ト泰山 氏)
十二年	宮本 隆助 芳太郎	同	茂田 秀夫 貴島 喜六	中督晴一郎 勇 芳太郎	神宮事務所 前金久支部新築	早町行道路改修、掲 示板(前金久) 種馬飼育始(池田幸 吉氏) 消防用タンクヲ造ル 前金及支部事務所新築	
十三年	宮本 隆助 芳太郎	同	光井 元文 花岡眞一郎	中督時一郎 花岡眞一郎	同	種馬付場設置(池田 幸吉氏) 破物入箱設置、夜警	

◆重なる字事業概観抄

- 1、燈臺、大正三年漁業者同志にて建設
- 2、學校敷地擴張。大正七年(文園校長)
石垣を取り除き海岸の方へ廣げ積み替へ、工事西風を排して遂行、小野昌照、武田良攝兩氏骨を折らる
實費十六圓餘(面積約七畝餘)後年又便所移轉擴張字費地代二百圓
- 3、學校土管水道。大正七年
雁股泉より土管にて引水、右擴張敷地所へ煉瓦タンクを据え、池を作りて噴水せしむ(鎮西八郎の歴史
の水をのむとして)實費五百餘圓、主任(秋月則榮、文園校長)土管製造者有限實
- 4、校外運動場。昭和二年
學校後援會にて整理、面積二町餘段(岡田校長、園田部仁英後援會長)
- 5、奉安殿。昭和四年
總工費八百餘圓、實費。(岡田校長區長、岡明篤、吉岡實亮)
- 6、サイレン。昭和八年三月
旅の小野津人會より奇贈、費用約二百圓(發企中督熊吉)

7、築港棧橋。昭和三年七月十八日より翌四年十一月まで二ヶ年事業

御大典記念事業として、青年處女を先頭に字中總出の二ヶ年に亘る勞力大奉仕、費用現金二千三百餘圓抑々築港することの始まりは吉山、小野、西、歷本等ゴアンジョに遊びにきて四方八方の話の中にその話が出て、遂に實現（總務文園彰、主任小野喜元、區長會計、高岡武常、三島五十八、完成後の修理其の他總務吉浦政吉）

8、八幡神社石垣及鳥居、昭和九年

費用、千餘圓、小野津旅人字民の寄附

（發企増田安廣、主任小野喜元、鳥居の技術は小野龍技手）

9、其の他字費事業

イ、昭和十年、早町支線道路、八十三圓七十一錢、勞力九日間（神宮ダケ宮本區長）

ロ、昭和十年、八幡神社排水路、四十三圓十五錢、勞力一日（同）

ハ、昭和十年、雁股池修理、三十四圓五十錢、勞力青年團奉仕

ニ、昭和十一年、神宮護岸工事、百十三圓五十六錢、勞力二日間（宮本區長）

ホ、昭和十一年、神宮青年會事務所、工費三百七十八圓二十錢内百五十三圓青年處女長嶺留池工事人夫賃を集積之れに充て、残りは字内寄附（安田繁二青年會長）

ヘ、昭和十二年、前金久青年會事務所、工費百八十八圓八十錢、青年處女長嶺留池工事人夫賃を積み立て之れに充つ、朝は三時頃より辨當の用意をしてやつたもの。

（貴島喜六會長）

ト、昭和十二年、前金久水タンク、工費二十四圓三十錢（勇區長）

附記。右別に（1）ウツカー公園工事（2）雁股公園工事（3）トウマンニヤラー工事等あり。（ト

ウマンニヤラーは昔月見の場所）。外に字事業でない、村の匡救事業として前金久の排水工事

一千七百餘圓、田神留池工事耕地整理組合（志戸桶小野津）（組合長松岡實迪）昭和四年

度五年度糖業助成金にて總工費一萬圓留池五千圓耕地總人員三萬人の事業等もあり

◆小野津築港工軍の回顧資料

(一)第一回旅への通信(當時の旅の小野津人會誌所載)

- 一、昭和三年七月十八日(舊六月一日)より起工只今どしどし進行中であります。
- 二、青年の作業組は神宮五組前金久五組(一組神宮三十人一組前金久二十人)必要に応じて兩方から一組若くは二組三組宛と徴集してやつてゐます。

(ダイナマイト入も最初起工の一日丈け職人を他から雇つて其の後は皆んな青年で入れてゐます)

- 三、一組の中その半数は女老人が居ます。最初の頃は茶番にしてゐましたが今は陸兵として青年がテンマに積み上げてきた石を埋立て地に運んでゐます。
- 四、埋立地(荷揚場)は學校下の所積上げた石を利用して随分廣い理想的な場所が出来ます。
- 五、テンマ一艘は學校からの寄附、石積上げには非常に助つて居ます。
- 六、土用時化のこの四五日港内をやりましたが皆んなウル岩で取除きに雑作はありません、所が其のウルについてゐるヨダレ様な汁が人體を刺すので青年の殆んどがそれにやられて腕、胸、肩とネボトの如く膨れて居るのは氣の毒ですけれども益々元氣旺盛、命がけでやつてゐます。
- 七、之からは港口の前金久の方と神宮潮干に出て来る中瀬を三四畝やつける積りです。

(二)第二回 四年八月廿九日現在の作業費用の經過通信文(謄寫刷ニテ)

- 1、昨年着手よりの作業延日數八十二日
- 2、同じく延人員六千六百七十人 一人一圓五十錢に換算して壹萬五圓也
現金收入壹千三百四拾八圓也、支出壹千四百二十一圓二十五錢
今年中今から——入用品——セメント五十丁、火藥三百圓の豫想

◎築港落成式は十一月三日、明治節頃

第一回會計報告 自昭和三年七月十八日(舊六月一日) 至昭和四年八月五日(舊七月一日)第一段落

一、收入金九四八・〇〇〇^圓

- 内 譯 1、字割立(昭和三年度)第一回 二五〇・〇〇〇^圓 第二回 二六〇・〇〇〇^圓
- 2、寄付金 自昭和三年七月十八日 至昭和四年八月五日 四三八・〇〇〇^圓

一、支拂總額 八六一、二五〇

内 譯

一、倉庫費 三六、六〇〇

二、火藥費 三一五、九三〇

1、一八一、八九〇 昭和三年度に注文

2、一三四、〇四〇 昭和四年度分

三、備品費 一三八、四二〇

1、一一、〇〇〇 ドンツキ

2、五七、〇〇〇 モッコ用金物輪(二尺モノ一〇個三〇、〇〇〇二尺モノ六個二七、〇〇〇)

3、二八、〇〇〇 熊手二十個

4、一八、九九〇 槌金ワイヤ運賃

5、七、〇〇〇 ウインチ

6、六、一三〇 ドンツキヤクラ二個用

7、一〇、三〇〇 繩代

四、傳馬代及修繕費 九五、八二〇

1、三〇、〇〇〇 テンマ代

2、六五、八二〇 昭和三年度ヨリ四年度ニ至ルテンマニ隻分修繕費

五、出張仕入旅費 六四、六一〇

1、二四、八〇〇 第一回目 上慶ノ分

2、三九、八一〇 第二回目 上慶ノ分

六、通信費 六九、五七〇

1、四七、二四〇 印刷用半紙狀袋帳簿用紙

2、二二、三三〇 電報爲替切手葉書料

七、雜費

1、五、五〇〇 紀工式費

2、八、四五〇 (鹽道寄附募集員八人ノ辨當代二日分沖繩人ノ方)

3、四、一五〇 青年慰勞三年度築港工事初日

4、六、〇〇〇 (伊實久寄附募集八人分辨當)

5、一四、六〇〇 傳馬大小引取辨當運賃

6、六、五五〇 ウインチ製作人夫八人賄慰勞

7、一〇、〇〇〇 ソテツバ採集

八、人夫賃 八五、〇五〇

1、四、〇〇〇 潜水夫ニ各分

2、八一、〇五〇 常人臨時日傭人夫賃

差引残高八六、七五〇

以上舊七月一日現在の分だけ總務の閲を経て右報告致します

會計係 高田 武常

區長 三島五十八

字民一同旅ノ皆様

第二回 築港工事費收支報告(決算)(旅人會誌上ニテ)

収入の部

一、四七五、五八〇 寄附金

八三〇、〇〇〇 字割立金

一九、一八〇 雜(セメント空樽其他賣却代金)

計 二千三百二十四圓七十六錢也

支出の部

三六、六〇〇 倉庫費

四〇五、六一〇 ダイナマイト代

一五六、一五〇 備品費

一五〇、七七〇 雜費

一一一、六二〇 傳馬代及修繕費

六四、六一〇 出張旅費

七五、〇二〇 通信費

一〇八、九五〇 人夫賃

一、一五一、〇〇〇 セメント代及運賃

五六、八五〇 作業狀態報告書及寫真代

一八、八〇〇 ウィンチ製作費

二八、一八〇 臺場工事費

二五、〇〇〇 落成式準備費

三一、五九〇 落成式費

計 二千四百二十四圓七十五錢也

昭和四年十二月十日

小野津築港部

會 總 務 計

○昭和四年十一月築港完成の祝賀會に字人を熱狂せしめた築港棧橋工事成祝賀の歌（當日は晝は祝賀會、夜は縣廳より借りたフィルムで活動寫眞夜晝花火を打ち上げて、ヤン／＼の大賑ひでした）

築港棧橋工事成祝賀の歌（日英同盟の曲で歌ふ）

- 一、我等の築港の棧橋の
今日の目出度さいざ祝へ
工事のなりて祝ふなる
- 二、悠々セメント二十五間
巾が通じて四間で
出来たよ／＼棧橋が
- 三、平和の海に棧橋が
小野津の字の字人の
包んで浮べてあなゆかし
- 四、荒波すさぶ荒れの日は
波間くゞりて隠忍の
自重の心美しく
- 五、いざや勇めよ字人よ
我等の望みは太平洋
我等の棧橋いざ稱へ
- 六、大空高くなにいふ
大洋深くなにいふ
我等の棧橋何をいふ
いざ／＼勇めよ字人よ

（文 園 總務作）

其の後棧橋修繕（字割立）

昭和三年 一回	九月十七日	二百五十八圓也
七年	六月	百二十圓也
九年	七月	百十二圓也
同	九月	八十圓也
同	十月	九十八圓也
十二年	十二月	八十圓也

計金七百四十八圓也

◆小野津築港寄附者芳名錄（昭和三年、四年）

金額	姓名	金額	姓名	金額	姓名
金五圓也	今家文實	金六十圓也	小野津小學校	金十圓也	明石常碩
同	明石常迪	同	保元謙助	金一圓也	卷野常照
同	明石常迪	同	野村茂照	金二十圓也	三島豐二
金十圓也	勇濟熊	同	進政彦	金一圓也	繁山德成
同	岩井源輔	同	思義照	同	照島直行
金五圓也	賢士巳	金二圓也	岩津喜美志	金五圓也	強富則
同	龍廣房	金十五圓	小野昌雄	金十圓也	小野昌寬
同	竹下美好	金十圓也	富良榮	金三圓也	倉園イシ
同	明石浦喜美	金五圓也	博豐明	金五十八圓也	沖繩人
金參拾圓也	岡爲輔	金十圓也	保田爲照	金五圓也	明石元一
金二圓五十錢也	小田兼滿	金五圓也	大島成英	金三圓也	文義太郎
金五圓也	秋月秋豐	金三十圓也	西元禎	金五圓也	直隈比古

同	岩崎辰二	同	泰部仁重	同	田畑爲禎
金五十圓也	進政隆	金一圓也	進政常	金十圓也	岡田富實
金十圓也	磨元嘉	金十圓也	長岡安豐	金五圓也	大原吉與
同	大井豐一	金一圓也	北祐昌	金三圓也	三井喜禎
同	大井豐二	同	生澄哉	同	富滿仟
同	廻成廣	同	篠原隆二	同	積二太郎
同	保田兼喜知	同	宮島源助	同	山科芳子
金三圓也	濱田政仁	同	永島善秋	金十圓也	花岡武豐
金一圓也	上島壯助	同	小林傳哉	金十五圓也	山元正宜
同	樹本直二	同	備長良	金二圓五十錢也	盛榮信
同	益田義廣	同	今家恭迪	同	小泉輝章
同	小林惠太郎	同	沖田龍藏	金五圓也	稻祐德
同	北園末太郎	同	大村豐七	同	繁山德成
同	豐岡繁助	同	進澄宜志	同	照直直行
金五圓也	永島定義	金五十錢也	圓嶺哉	同	進盛廣

同 保崎兼久 金十一圓也
 同 北岡末太郎 金十圓也
 同 内田治右衛門
 同 大村豐七
 同 永島善作
 同 泰部仁吉
 同 吉野道信
 同 上島壯助 金五圓也
 同 柳オメト
 同 樹木榮助
 同 有限直
 同 樹藤政 金二圓也
 同 池田幸吉 金五圓也
 同 津田知隆
 同 台司榮篤

光井則喜美 金三圓也
 廻安廣
 保崎里成
 茂田常喜美
 同 園田部仁英 金二圓也
 同 吉田元龍
 同 岩崎時義
 同 繁山喜則
 同 上園德寬
 同 思豐滿
 同 保莊川
 同 惠秀吉
 同 保立爲吉
 同 秋月則榮
 同 秋月巽

内山長文
 福山榮賀
 宮端昌
 卷常仁
 園部知親
 李澄廣
 保科豐綱
 武田良攝
 泰嶺悅
 今家元生
 關安二
 泰部仁政
 高岡常有
 賢常政
 正岡直碩
 港武榮

同 山元部仁碩
 同 野島豐重
 同 小田季益
 同 西元理
 同 實亮明
 同 長正之
 同 登正明
 同 櫻則三
 同 金五圓也
 同 金一圓五十八錢也 嵩
 同 金一圓五十錢也 堅山忠一
 同 澄長久
 同 思滿生
 同 櫻濱水
 同 小泉信照
 同 岡正有
 同 金一圓也

堅時明
 同 梢喜美生
 同 田畑里靜
 同 直島實西 金二圓五十錢
 同 大山時生 金五圓也
 同 實亮碩 金四圓也
 同 基イシ 金二圓也
 同 岩尾長有
 同 上野要徹
 同 保タツ 金三十圓也
 同 岡本榮碩 金五圓也
 同 赤崎カネ
 同 林ともまい 金十五圓也
 同 澄行生 金十圓也
 同 三島しゆまつ 金七圓也

貴島元雄
 中督龍迪
 濱川兼碩
 小田末吉
 福藤富
 進澄禎
 柳秀明
 以上
 部 藤原輝
 高島朝章
 大田兼明
 杉山實部仁
 相良典一郎
 高木榮
 星野彦美

二〇〇

金五圓也	吉岡彦輝	金三十圓也	上島義美	同	高岡富榮
同	森則澄	金五圓也	松岡駒吉	伊實久之部	
同	島山定義	同	城間廣	金五圓也	平山元郎
金十圓也	中村七之助	同	西田常仁	金二圓也	平松爲常
金五圓也	早川禎郁	同	喜田幸俊	同	平兼里
同	大山玄平	金十圓也	千坂六郎	同	西壯文
金二圓也	宮島禎藏	金一圓也	長玄嘉	金五十錢也	平善哉
金十圓也	永井莊文	金五圓也	郡禎玄	金二圓也	里喜生
金三圓也	橫峯熊助	同	喜禎康二	同	久永豐滿
金五圓也	松岡實迪	金一圓五十錢也	平岡禎玄	同	若松利豐
同	萩原安熊	阿傳之部	岡本源益	金一圓也	岩下清文
金二圓也	大浦玄長	金二圓也	瀧養憲	金五十錢也	里伯摩
金二十圓也	森山元久	同	高崎賀文	同	榮政弘
金十五圓也	笠井純一	嘉鈍之部	同	同	望月安文
			同	同	秀島盛彦

二〇一

金三圓也	仙玉正	酒二升	秋月秋豐	同	三升	吉田元龍
金二圓也	武安行	同	綠治政	同	一升	岡明德
同	下島昌貞	同	今家文質	同		吉岡實亮
金十圓也	原守也	同	吉内養豐	同		上園德寛
	(稅務署長)	同	園田部仁英	同	一斗五升	光井則喜美
	附記	同	都豐生	同		岩崎時義
	炎天にも係らず猛作業の青年の意	同	武田良攝			茂田常喜美
	氣に感じ慰勞として寸志傳達を乞	同	文園滋子			
	ふとて寄贈を受けし分	同	秋月則榮			

○サイレン寄附者芳名録 (昭和八年)

金額	氏名	金額	氏名	金額	氏名
金十圓也	吉内豊久	同	津田知隆	同	小野昌雄
金七圓也	増田安廣	同	津田行季	同	大山謙一郎
			橋口豊	同	高濱士己

同	照島直行	金一圓五十錢也	嵩慶太郎	同	大井豐一
同	岩野實吉	同	大山謙治	同	傳豐明
同	保田兼彦知	同	南村平	同	守內兼行
金三圓也	進一男	金一圓也	村上常民	同	守內部二重
同	正本重吉	同	福島藤富	同	守內玉悅
同	繁山澄厚	同	櫻則三	同	廻安廣
同	勇芳太郎	金一圓也	川村直水	金五十錢也	柳成廣
同	茂田時一	同	川村民彦	金五圓也	中督熊吉
同	花田豐彌	同	福島政屋	同	繁山德成
同	明石常迪	同	大倉澄禎	同	上島壯助
同	吉岡實廣	同	野口常興	同	樹木直二
金二圓也	大村豐七	同	中山壯川	同	永島善作
同	豐岡繁助	同	津植次郎	同	橫山政喜美
同	米澤壯吉	同	藤田富和	同	益田義廣
同	濱川政市	同	野島豐重	同	卷野常照

同 泰山部仁吉 同 濱川兼久 同 赤崎元治

○八幡神社寄附者芳名錄 (昭和九年)

金五圓也	岩井源輔	同	西元禎	同	吉崎喜義
金一圓也	今家浦吉	金五十錢也	西謙亮	金三圓也	吉原勇作
金五圓也	岩尾池三	金五十圓也	H・F	金五十錢也	吉倉實彦
金十圓也	岩崎時仁	同	上園幸助	金十圓也	寶爲行
金二圓也	岩崎實志	金五圓也	堅山豐三	同	寶爲圓
金三圓也	今家豐宜	金一圓也	堅山忠一	金二圓也	寶爲哉
金一圓也	岩津喜美志	同	川村直水	金一圓也	寶仲吉
金十圓也	橋口豐	金三十圓也	薰利道	金五十圓也	早町村役場補助金
金二圓也	濱川兼久	金五圓也	吉內元龍	金十圓也	園田壯吉
同	花田豐彌	同	吉內盛吉	金五圓也	津田知隆

金一圓也 津 植次郎 金二圓五十錢也 大山謙二 金百圓也 增田安廣
 金一圓也 中山壯川 金十圓也 山元正宜 金一圓也 慶廣信
 金二圓也 永島善作 金三十圓也 安田實政 金三十圓也 文園彰
 同 永島秋久 金十圓也 山本藤豐 金五圓也 福島政奧
 同 中督熊吉 金五圓也 保村實二 金一圓也 福島藤武
 金五圓也 野島豐重 金三圓也 保田兼喜知 同 福島利種
 金三圓也 野島元輔 金一圓也 保田爲照 金一圓也 藤田富和賀
 金二圓也 野村忠義 金十圓也 泰山部仁吉 金二十圓也 神戶共榮會保存
 金一圓也 野口常德 金二圓也 泰山部仁助 金三圓也 サイレンの殘金
 金五圓也 小野昌雄 同 柳秀明 金二圓也 櫻則三
 金十圓也 岡滿照 金三十圓也 松岡常吉 金五圓也 小泉輝彰
 金五圓也 小野津小學校職員一同 金五圓也 益田顯二 金二圓也 櫻井義二
 同 大井豐一 金二圓也 益田源治 金一圓也 盛英信
 同 大井豐二 同 益田義廣 金五圓也 秋月田實
 金一圓也 大倉澄禎 同 卷野常照 金二圓也 清田政直
 北岡末太郎

○教育品寄附芳名

金百圓也 三島豐二 金一圓也 滿藤義常 金一圓也 傳豐明
 金十圓也 光井喜美信 金二圓也 宮崎藤重 金十圓也 守內部仁吉
 金十圓也 光井元之 同 三島彰 金貳圓也 守內部仁重
 金十圓也 南實吉 同 繁山徳成 同 守内兼行
 金五圓也 都豐實 同 繁山直志 金二圓也 關實生
 金一圓也 宮田源介 同 島崎盛廣 金三圓也 澄岡晴太郎
 金二圓也 實亮信 同 進藤義太郎 同 進一男

駄鳥卵 一個 岸 爲 照 一金三十圓也 登玉明
 孔雀羽 一 廻 安 廣 毒瓦斯除 一個 生盛圓
 歐洲寫真帖 同 同 安 廣 關東大震災畫報 富徳造
 臺灣蕃人服裝 一着 堅 政 信 電球 一個 小野昌雄
 臺灣人小學生習字 同 人 信 人 世界一週寫真帖 思兼輔

在營記念寫眞帖

大正十三年 二月一日	大正十三年 四月一日	同 八月十日	同 十二月一日	大正十四年 一月十三日	昭和六年 十月	昭和六年 十月十五日	昭和六年 九月	昭和六年 十月	昭和六年 十一月
櫻ノ苗木 百本	石炭	ドイツ紙幣 一枚 (百圓札)	ヤシの發芽(南洋産)	印刷機 一組	海底電線見本 一本	披旗一梳及 附屬品一切	手洗器 一個	南島史考 一冊	大島郡教育會
同 人	岡 爲 輔	大井 豊 一	中 督 政 慶	山 元 正 宜	米 澤 貞 吉	西 元 禎	盛 山 春 吉	大島郡教育會	大島郡教育會
昭和七年 二月十八日	昭和八年 三月	昭和八年 四月四日	昭和八年 五月廿五日	昭和九年 十月一日	昭和九年 十月	昭和十年 一月八日	同	昭和十年 五月八日	昭和十年 五月八日
ベルギー帽 二個	米、支、印、棉標本	滿洲國建設錄 其他十二冊	鱒 一(シンガポ ル産) 椰子ノ實 一	タラバ蟹(カムチャ ツカ産)	朝鮮煙管 一本	越後地方 深藁靴一 ツマカケ、カンジキ一	書籍「全日本國民に 告ぐ」其他數冊	櫻ノ木 一本	櫻ノ木 一本
高濱 土 巳	野村 晴 一 郎	貴 島 謙 二	松 原 林	小野 謙 一 郎	明石 浦 喜 美	中 督 熊 吉	貴 島 顯 二	吉 内 豊 久	吉 内 豊 久

同	昭和十年 五月三十日	昭和十年 九月三日	昭和十年 七月十日	昭和十二年 二月	昭和十二年 七月五日	昭和十三年 二月廿三日	昭和十三年 五月	同	同	昭和十三年 六月
鯨髯 一	滿洲國現勢(康德二 年版)	一金二十圓也(ラント一 園)	鯨齒	化石(鴨綠江産)	一金十圓也(外に書 籍二冊)	羅針盤 一個	友那事變、上海戰線 畫報	鯨髯ト捕鯨寫眞帖	青龍刀ト鐵兜	鯨の耳骨
茂田 時 一	貴 島 顯 二	園 田 壯 吉	茂 田 時 一	南 山 榮	長 田 兼 輔	津 田 知 隆	池 田 善 久	中 督 正 七	内 田 忠	内 田 晟 照
昭和十三年 八月八日	昭和十三年 五月	昭和十三年 九月廿六日	同	同	昭和十三年 五月	昭和十三年 十月	昭和十三年 十月	同	同	同
鯨ノ子 一匹	砲銃彈 三個	支那貨幣 九十二枚	砲銃彈 三個	たらばがに(カムチ ヤツカ産)	青龍刀	ラヂオ(百五十圓)	同	同	同	同
茂田 時 一	大 山 謙 二	樺 山 政 喜 美	同	同	同	堅 山 豊 三	同	同	同	同

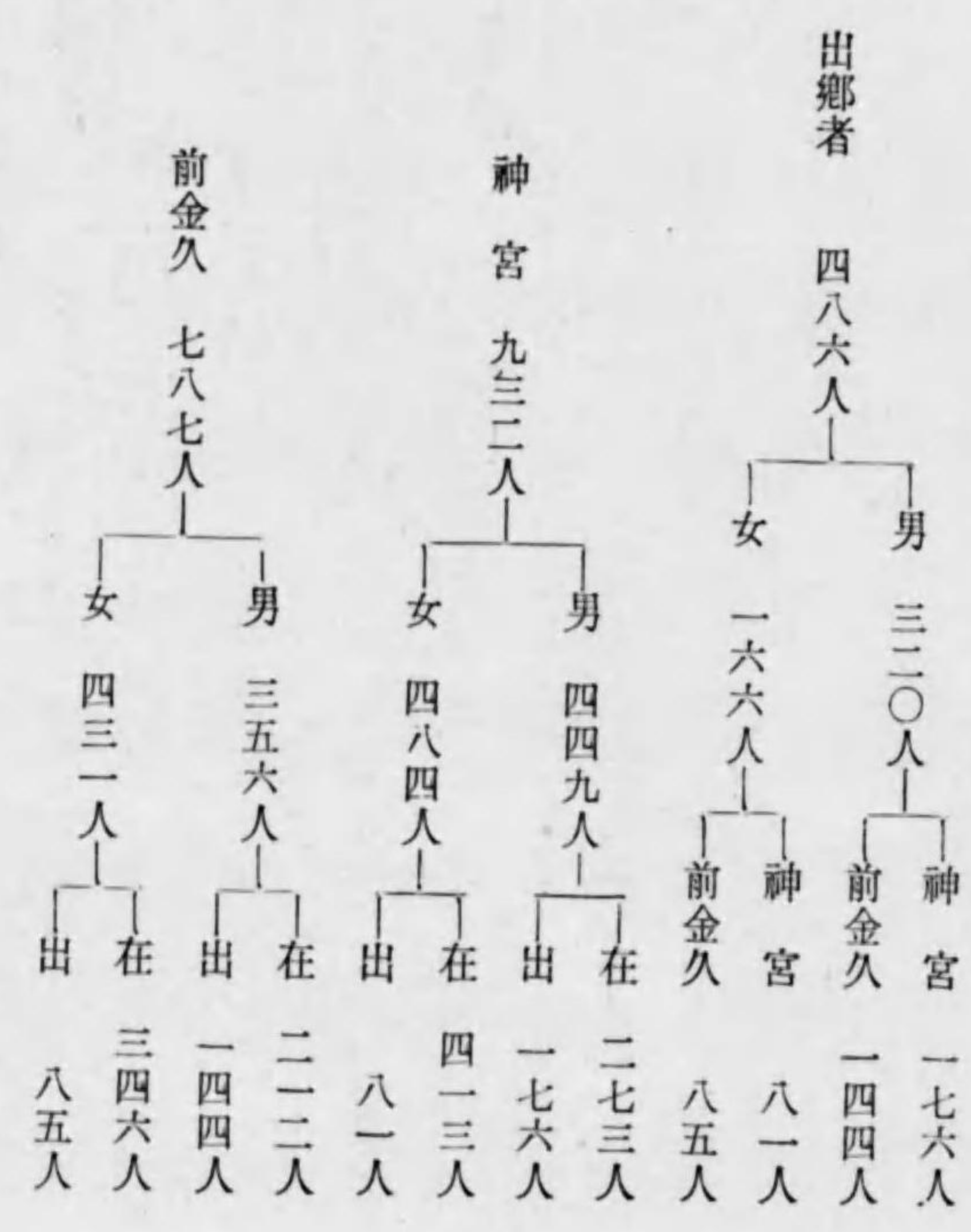
(以上十三年末現在)

團體寄附の部(昭和一四年現在)

年月日	品名	氏名	備考
昭和六、一〇、八、	金百七拾參圓八拾六拾也	小野津字民一同	理科機械設備費
同 六、一〇、	柱(丸)時計 壹個	第十九回卒業生	
同 九、九、	學藝會用幕 壹張	第二〇回卒業生	
同 一〇、三、	大鏡 一面	第二一回卒業生	
同 一二、三、	門札 壹	第二三回卒業生	
昭和一四、一、	柱(角)時計 壹個	第二四、二五回卒業生	
同 一四、一、	額(靜物) 壹個	臺司三代二	
	個人寄附追加之部	上島壯助	
	二宮先生像壹、駝鳥卵壹個		

◆小野津字現況(昭和十三年一月十七日現在)





○小野津消防團組員(是れが字すべての方面に活躍する中心人物参考のため記す)

組頭 宮本三太郎、組員 西清儀、大村豊七、泰山部仁央、都重利、橋口豊彦、光井元之、中督晴一郎、吉

山泊利、惠秀吉、北岡峯武、西重市、橋口實、清田安宜志、福山岩熊、保本龍徳、勝本玉信、登則道、高山政治、金江實一、尾崎岩助、花岡新一郎、勇芳太郎、野島友吉、赤崎季武、岡哲、豊岡繁賀、貴島喜六、小野繁昌、吉倉滿儀、柳秀吉 總員三十一名。

外 諸 團 體
1、青年團二十人、2、處女團一三七人、他に國防婦人、農事小組合、戸主會、學校後援會、納稅督勵會。

生産ト消費ノ概算(昭和十二年度分)

一金七萬四千四百四十圓也	總收入
内譯 金一八二六〇圓	大島紬代より糸代差引金
金二三三八〇圓	農産物收入(別表の如し)
金 七〇〇〇圓	牧畜よりの收入(十三年は軍馬補充、其他による賣却金、五二頭代八八二一圓)
金 一五〇〇圓	其他に依る收入
金二四〇〇〇圓	出郷者よりの送金

一金四萬百九十二圓三十五錢 總支出

內譯 金 一八七一圓六〇錢 米買入金

金 一四九七圓七五錢 大豆買入金

金 一四三圓 麥買入金

金 九〇〇圓 燒酒買入金

金 七六八〇圓 諸税金

金二〇〇〇圓 其他の支出

差引殘額三萬三千九百四十七圓六十五錢

小野津耕作地

地目	地積	一戸當り地積
田	一七四段〇一五	五畝十六步
畑	一八六九段六二二	五段九畝二十二步
宅地	三一四四八坪	一〇〇坪四七
雑	三六〇段八二〇	一段一畝十二步

暴風

表(最近ノモノ) 古イモノハ郡代官記中ニアリ

年度	回数	月及程度	備考
昭和六年	一	八月二十四日 大風	
同 七年	二	七月二十九日 小風 八月九日 小風	
同 八年	三	七月二十五日 小風 七月二十八日 小風 八月四日 小風	
同 九年	一	八月八日 大風	
同 十年	二	八月二十八日 小風 九月九日 大風	
同 十一年	一	七月七日 小風	
同 十二年	三	七月十二日 小風 八月三日 小風 九月十日 小風	
同 十三年		十月ニ約二週間時化續ク 便船ナシ (大隅地方風水害ノ影響カ)	

約四十年程前ニ（いぬ年十月頃）鹽雨降ル、作物罹害甚大、食物ニ困ル。

大 島 紬

年 度	製造反數	總 價 格	正平均値
昭和 九年度	三、一三〇反	四萬八五一五圓	三一、〇〇圓
同 十年度	二、九二六反	四萬三八九〇圓	三〇、〇〇圓
同 十一年度	二、二三八反	三萬三五七〇圓	三〇、〇〇圓
同 十二年度	一、八八四反	二萬八二六〇圓	三〇、〇〇圓
同 十三年度	一、二九二反	二萬二六一〇圓	三五、〇〇圓
工場數 一七（神宮十一、前金久六）			
女工數 二二〇			

農 産 物 概 算

一金二萬三千三百八十圓也

内 譯	金	唐 芋	ハツカ	大 根	稻	砂 糖
金 一五〇一二圓	金 三〇〇〇圓	金 四三六八圓	金 一〇〇圓	金 一〇〇圓	金 一〇〇圓	金 一〇〇圓
十三年春一 一丁ニ對スル代 植付段別 三四町五段一畝歩	賣却ノ分 三十萬斤ニ對スル代 植付段別 七四町六畝歩	反當七〇圓トシテ 代 植付段別 六町二段四畝歩	賣却ノ分 十萬斤ノ代 一戸當リ約三圓餘	賣却ナシ 植付段別 一〇町一段九畝歩		

年 度	樽 數	總 價 格	平均一丁値
昭和 十年度	一七六九	一萬六八〇五圓五〇錢	九圓五〇錢
同 十一年度	一三八〇	一萬〇〇七四圓〇〇錢	七圓三〇錢
同 十二年度	一五二五	一萬九〇六二圓五〇錢	一二圓五〇錢
同 十三年度	一一一二	一萬五〇一二圓〇〇錢	一三圓五〇錢

牧畜

種別	頭數	備考
馬	二四〇	
牛	一六	
豚	二七一	
山羊	三四六	
兔	一二六	
鶏	七四九	

昭和十三年度軍馬補充馬其他に依る賣却數

五十二頭 代金八千八二二圓

(附記) ○畜産に殊勳の愛蓬號

國有種牡馬愛蓬號貸下年月日 大正九年九月十三日、(出産年月日 大正六年)

右種牡馬は北海道産にて當地の飼料に馴れない爲め卅日間小野津(園田氏)にて飼育を致し、其後佐手久坂

清生に管理せしめたのである。今年まで十八ケ年間種付を續けたる爲め喜界島馬の改良發達を遂げ、全國的に喜界島馬の名聲を上げ本年は軍馬に徵發を受け現在軍人と共に國家に奉公しつゝあり、之れは専ら愛蓬號の賜なり。

兵 役 關 係 表

氏名	年 度	兵 種
小野直心(故)	明治二十四年	歩兵中尉
碓保正(故)	同二十五年	現歩
進澄宜志	同三十年	同
更隆榮	同三十二年	補輻重兵
文知弘(故)	同	補歩
勝玉水	同	同
小泉信照	同三十五年	輻重兵(勳八等)
備榮良	同	補歩
勝米武	同	同
岡爲生	同	同(勳八等)
南島豐川(故)	同三十四年	海軍
堅時文	同三十五年	補歩

恩 豐 滿	同三十六年	歩兵
岩津 豊 榮	同三十七年	補歩
堅山正信(故)	同	同
濱川政津美	同四十三年	歩兵
勇喜久榮	同	同
金井政澄	同	補輻特
恩喜三志	同四十四年	輻特
米澤實淳	同	工兵
強富則	同四十年	歩兵
慶德悅	同	輻重兵
園田正隆	大正元年	歩兵
南政明(故)	同	補歩
薰貞利	同	歩
三島玉英	同	補歩
朝富介	同	歩兵

直 實 次	同	補輻特
明石常雄	同	補歩
忠岡藤豊	同	同
岩本政明	同二年	補輻特
開常哉	同	補歩
福澤生貞	同	輻特
磨莊照	同	歩兵
盛平熊(故)	同	同
弘前道禎(故)	同三年	同
實田盛亮	同	同
寶爲圓	同	同
增田安迪	同	輻重兵
照島直行	同	歩兵
碓隆市	同	補歩兵
安田行重	同	同

花岡武豊	同元年	同
藤富和賀	同二年	同
田畑爲貞	同四年	補輻特兵
明石原一(故)	同	歩兵
里道信	同七年	補歩兵
廻安吉	同	歩兵
野田政吉	同	輻特兵
卷常吉	同八年	補特兵
登則道	同	補歩兵
長田兼輔	同	歩兵特曹長
曆本實徹	同	補輻特兵
吉山泊利	同九年	補輻特兵
寶宮佐賀	同	海軍
池田幸呈	同	補歩兵
保龍德	同	補特務兵

勝本玉信 同 同
 大井豊一 同 補步兵
 守内部仁重 同 輜特務兵
 吉倉滿義 同 同
 都重利 同 十一年 同
 盛徳心 同 同
 篠原隆二 同 輜重兵
 澄飛古也 同 補特務兵
 西兼亮 同 豫備少尉
 岡爲輔 同 十二年 補步兵
 貴島顯二 同 憲兵特曹長
 保村泰治 同 補步兵
 明石浦喜三 同 補步兵
 磨嶺文 同 步兵
 小野喜元 同 輜特務兵

春川畑則 同 同
 薰藤重 同 步兵
 宮本隆助 同 十三年 輜特務兵
 野村茂照 同 步兵
 大井豊二 同 豫備少尉
 吉岡李禎(戰死) 同 工兵
 直島隈比古 同 補步兵
 高山政治 同 同
 井上義照 同 十四年 同
 卷常基(故) 同 同
 益田義廣 同 同
 金江實一 同 補特務兵
 津村有助 同 同
 吉倉實彦 同 輜重兵
 吉田元太郎(故) 同 昭和二年 步兵

寶常興 同(西南事變) 步兵(勳八等)
 濱川兼久 同 同
 米澤宗吉 同 三年 補步兵
 武田茂 同 輜特兵
 岡滿照 同 輜特兵
 村田恭心 同 同
 都豊實 同 同
 保本富彦 同 補重砲兵
 守内兼行 同 補步兵
 守内部仁吉 同 輜特兵
 泰山部仁央 同 同
 嵩實吉 同 四年 輜重兵
 橋口豊 同 補步兵
 泰仲吉 同(上海事變) 海軍(勳八等)
 薰利種子 同 步兵

櫻井義二 同 補步兵
 長一男 同 五年 補特務兵
 尾崎岩助 同 步兵
 西森義 同 補步兵
 清川政彦 同 輜特兵
 小泉照章 同 補步兵
 小林慶太郎 同 同
 清川政市 同 同
 泰山部仁吉 同 同
 富崎盛照 同 同
 松本廣房 同 六年 野砲兵
 直實太郎 同 步兵
 三島彰 同 補步兵
 秋月龍一 同 同
 保井料榮 同 八年 輜重特務兵

野村忠義	寶政仲	宮島爲豐	繁山直介	南島長夫	園部薰	金江政太郎	直島俊夫	三島進(故)	益田元四(戰死)	野島豐志	松本忠好	寶政仲	正直太郎	池田善久
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八年						九年								
輜特兵	同	補步	輜特兵	補步	同	輜特務兵	補步	同	野重砲兵	補步	同	同	同	一等水兵

永野慶太郎	富實	今家昇	宮田爲安	保村實二	小泉卯之助	高田富照(戰死)	岩本清隆	寶政豐	稻榮作	吉澤常秋	薰山忠一	園部平	良平次郎	土岐敏次
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
六年	十年						十一年					十二年		
補步	同	同	同	同	同	步	同	同	同	同	同	重砲	步	輜重

吉田尙龍	宮島宏	馨利夫	保立爲義	勝本玉彦	泰山部仁助	川村辰彦	小泉松三郎	開時太郎	實榮六	務文夫
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
工兵	水兵	重砲	工兵	步兵	輜重	輜重特務兵	步兵	輜重特務兵	同	補充步兵

增田甚贈	吉浦繁雄	台司三代二	生德次	中督正七	大畑元次	正岡五十一	濱田哲助	松崎龍三	薰親一郎
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
		十三年							
步兵	補充兵	步兵	同	水兵	步兵	野砲兵	步兵	野砲兵	步兵

◆壯行兵士調 イロハ順 (十三年二月末現在)

氏名	兵役年度	兵種	部隊名	駐屯地
池田善久	昭和九年兵	一等水兵	上海海軍特別陸戰隊 第一大隊一中隊指揮小隊	上海
稻穎作	昭和十一年兵	補充特務兵	稻葉部隊若松部隊 山本部隊本部隊小行李	
(歸還) 西謙亮	大正十一年兵	歩兵少尉		
金江三千雄	昭和十二年兵	少年航空兵	大日本軍艦龍田 第四分隊	
金江政太郎	昭和九年兵	輻重兵特務兵	中支派遣軍柳川部隊稻葉部隊氣付 川真田部隊大浦隊一分隊二班	中支
堅山忠一	昭和十一年兵	補充工兵	中支派遣稻葉兵團 中村部隊中田隊青木隊	中支
(歸還) 寶常興	昭和二年兵	歩兵一等兵	北支大同第四軍事郵便取扱所氣付 河野部隊加藤隊	北支大同
寶政仲	昭和九年兵	輻重兵特務兵	中支派遣折川部隊稻葉部隊氣付 川真田部隊大浦隊第十六班	中支

寶政豐	昭和十一年兵	歩兵一等兵	支那派遣稻葉部隊氣付 竹下部隊小原部隊鹽見隊	中支
(戰死) 高田富照	昭和十三年十月十一日陽新附近ニテ戰死 昭和十年兵	歩兵上等兵	中支派遣畑部隊氣付 波田部隊佐藤部隊川崎俊隊	中支
(歸還) 長田兼輔	大正八年兵	歩兵	波田部隊佐藤部隊	原隊
園部薫	昭和八年兵	輻重兵特務兵	中派遣柳川部隊稻葉部隊氣付 川真田部隊江夏隊一ノ五	中支
思榮輔	昭和三年兵	歩兵一等歩	支那派遣軍稻部隊若松隊	
大井豐二	大正十三年兵	野戰重砲兵 少尉	中支派遣柳川部隊 丸山(ハ)部隊西山隊	中支
保村實二	昭和十年兵	野砲兵一等兵	中支派遣稻葉部隊氣付 藤村部隊池邊隊	中支
吉澤常章	昭和十一年兵	歩兵	內蒙派遣連沼兵團 原口部隊外團部隊松島隊	內蒙
益田元四	昭和九年兵	野戰重砲兵 上等兵	中支派遣軍柳川部隊氣付 丸山(ニ)部隊馬場隊	中支
(歸還) 野村茂照	大正十三年兵	歩兵上等兵	波田部隊高橋部隊原田部隊吉田隊	

宮田 爲安	昭和十年兵	陸戰隊	佐世保局氣付有本第十四
秋月 龍一	昭和六年兵	一等水兵	航空隊高雄部隊六分隊
上園田 嶺文	大正十年兵	軍曹	旅順要港部第一分隊
土岐 敏宜	昭和十二年兵	輻重兵	松浦部隊市川部隊
良野 平次郎	昭和十二年兵	步兵一等兵	萩尾部隊本部付
泰山部 仁助	昭和十二年兵	輻重兵	中支派遣稻葉部隊氣付
保立米 賀	昭和十二年兵	工兵	川真田部隊大浦隊本部
生 一 二	昭和十一年兵	補充兵	北支派遣瀧沼部隊
益田 傳吉	昭和十一年兵	戰死公電	後宮部隊千田部隊神宮
山本 樹宗	昭和十二年兵	步兵	滿洲國牡丹江省杜江
勝本 玉彦	昭和十二年兵	步兵	奧村部隊氣付内ヶ島隊
			中支派遣稻葉部隊
			增田部隊青木隊三ノ四
			岡本部隊第二中隊第三班
			中支派遣軍松浦部隊付
			柳川部隊谷口野元隊
			興安北省梅拉爾石田部隊城戶隊
			北支派遣瀧沼部隊
			後宮部隊千田部隊山田隊第二

御用船乗組員及船名(十三年二月末)

吉岡 季禎	大正十三年兵	工兵伍長	中支派遣松村部隊茶村部隊	中支
直島 俊夫	昭和十年兵	輻重特務兵	柏原隊	中支
内田 忠	昭和九年兵	輻重特務兵	中支派遣軍	中支
川村 辰彦	昭和十二年兵	輻重兵	松浦部隊瀧川隊海老原隊	中支
増田 甚曾	昭和十二年兵	步兵	中支派遣松村部隊氣付	中支
岩野 實吉	昭和四年兵	步兵	瀧川部隊崎田隊本部	北支
實 榮 六			北支派遣軍川岸兵團	北支
開 時太郎	昭和十二年兵	輻重特務兵	加藤部隊藤本部隊土肥隊阿曾班	北支
			大村部隊四五	北支
			中支派遣軍松浦部隊	中支
			池田部隊寺川隊本部	中支
			不明	中支
			中支派遣松浦部隊瀧川部隊	中支
			海老原部隊金栗隊十九班	中支

關 喜 市 神戸市海岸通一丁目日本郵船株式會社 銀洋九

守内兼行 神戸市海岸通三丁目板谷商船株式会社 大日丸
 宮田源介 神戸市明石町明海ビル内青事商事會社 第二青山丸
 村上常民 大阪商船株式会社 波上丸
 川畑直隆 廣島市宇品町海岸通一丁目日本郵船株式会社氣付 八海山丸
 花岡源照 大阪市西區江ノ子島東ノ町左近株式会社 常宮丸
 豐岡繁助 神戸市神戸區海岸通り一丁目近海郵船會社 吉野丸
 永野慶二郎 神戸市榮町二丁目甲斐商店 大速丸
 岩榮照 神戸市神戸區播磨町十七番地日産汽船會社 ヤヨイ丸
 金江政二 廣島市宇品町海岸通り代理店松田商會川崎汽船 いんであ丸
 堅文夫 廣島市宇品第一船舶輸送司令部港務課船員係氣付 福榮丸
 岩田善太郎 神戸市榮町三丁目山下汽船株式会社 寶永山丸
 小林惠太郎 神戸市榮町三丁目山下汽船株式会社 旭光丸
 北川幸喜美 中支派遣軍片村部隊本部氣付 大衆丸
 北川定市 東京市麴町區丸ノ内海上ビル日ノ出汽船株式会社 西京丸
 清川富碩 佐世保市松浦町二丁目川副商會氣付 大仁丸

進登雄 大阪商船株式会社 しあとる丸
 吉内盛吉 神戸市神戸區明石町三二玉井商船株式会社 伊太利丸
 福島利種 神戸市神戸區榮町二丁目川崎汽船株式会社 青山丸
 久豐眞 上海派遣櫻井部隊上原隊氣付海上トラツク 喜代丸
 中督喜好 大阪商船株式会社 東京丸
 吉崎喜美一 神戸市榮町二丁目山下汽船會社 たまほこ丸
 益田元七 兵庫縣西宮市本町三十二番地辰馬汽船株式会社 辰馬丸
 大瀬實季 神戸市海岸通濱根汽船株式会社 あさか丸
 高島忠彦 神戸市神戸區明石町一八日清海運商會 全固丸
 進藤政忠 神戸市海岸通商船ビル内興國汽船會社 甲山丸
 松本定義 大連市敷島町六番地春和汽船株式会社 春祥丸
 松本政二 西宮市本町辰馬汽船會社 悠紀丸
 篠原隆一 神戸市海岸通日本郵船會社氣付 御嶽山丸
 柳貞久 中支派遣軍第五碇泊司令部氣付 大象丸
 櫻謙志 不明

正木重助 東京市日本橋區室町二丁目一番地一東洋海運株式會社 加茂川丸
 直島實一郎 廣島縣宇品町三井物產代理店宮友本店氣付 明元丸
 保崎傳吉 宇品松田商會 山萩丸
 小田滿秋 神戸市神戸區榮町通二丁目川崎汽船會社 青山丸
 守内玉悅 神戸市海岸通一丁目日本郵船株式會社 高岡丸
 關 豐 忠 神戸市海岸通一丁目日本郵船株式會社 三笠丸甲板部
 上村繁森 神戸市海岸通三丁目神戸商船會社 喜美丸
 上村藤政 神戸市海岸通三丁目板谷汽船會社 彌彦丸
 岩野 實 東京市日本橋區室町二丁目一番地一東洋海運株式會社 加茂川丸
 内田忠雄 兵庫縣西ノ宮辰馬汽船會社 辰風丸
 繁山澄厚 不明
 宮島科豐 神戸市明石可三二玉井商船會社 伊太利丸

◆中等學校以上卒業生及在學生

卒業生

中督單 要(故)漢學修業
 三島玉 丈(故)出鹿兒醫學
 小野直 心(故)教導團
 西 兼 厚(故)出鹿兒漢學
 曆 則 有(故)名瀨遊學、長崎ニテ獨學
 勝 芳 哉(故)醫學
 西 元 禎 東京私大
 能松行 實(故)大島農學校
 吉田元 龍 講習
 保 謙 賀 本縣師範
 秋月顯 豐 本縣師範
 小野昌 雄 大阪遊學

長 正 之 講習

三島行 義(故)鹿兒島沖繩遊學
 三島豐 二 沖繩師範
 文 知 弘(故)鹿博約義塾。熊本、沖繩ニテ醫學
 求 義 要(故)沖繩ニテ勉學
 三島顯 義(故)造士館
 森 則 澄 本縣師範、簡易科卒、本正檢定
 文 園 彰 鹿師日大大阪法專大阪外語別科
 秋月秋 貞 講習
 圓 嶺 治(故)講習
 南島純 二 鹿兒島、東京勉學
 保 武 義(故)本縣師範
 三島久 吉 第七高

西 謙 亮 日大
 都 福 常 鹿師範、日大本科、高文
 岡 爲 輔 九州醫科大學校
 都 豐 實 商業學校
 竹下美好 文檢(國漢)
 明石久 朝鮮師範
 保田兼喜知 阪大醫科
 山内忠吉 東京帝大經濟
 岩倉正太郎 東京高商
 岩崎義二 關西大學
 慶 廣 信 鹿師範
 保科 創 福中、名古屋國學院、鹿師二部
 岩野富隆(故) 日本第三高等學校
 明石正 鹿屋農學校、京城師範
 竹下良夫 大阪八尾中學校

台司榮市(故) 明治大學
 勇 濟 熊 東京
 野 島 豐 志 福岡帝大
 小野喜元 大阪桃中
 村上秀一 大阪市立市岡中學校
 村上秀二
 吉田龍天 講習
 思 豐 三
 台司美代二 檢定
 高岡初喜順(故) 福山中學
 西 元 一 慶應大學經濟科
 西 正 愛 日本大學理科
 小野 隆 義(故) 鹿高農
 小野 直 彦(故) 二中
 小野 龍 鹿工

大井豐二 大阪高商
 堅山豐三 大阪桃中無線學校
 森本常政 高等海員
 磨 顯 龍(故) 同
 津田知隆 同
 博 元 豐 同
 博 豐 明 同
 大井豐一 同
 三島繁彦 沖繩中學
 三島エイ 沖繩師範
 園部セズル 講習
 都 芳 子 沖繩師範
 文園滋子 鹿第一高等女學校
 岡 エイ 鹿高女、一高女專攻科
 竹下チツ 大阪八尾高等女學校

山 元 エイ 鶴嶺高女
 岩倉クニ 鹿高女、同專攻科
 在學生
 岩本久一 滿洲醫科大學
 岩倉源熊 福岡帝大
 松岡忠雄 鹿高商
 岩崎禎智郎 大島中
 上園道則 大島中
 明石邦夫 鹿中
 三島 徹 東京帝國大學國學院
 明石德次 鹿中
 思 豐 二 同
 秋月幸男 大島中學
 西 秀 敏 鹿中
 要 繁 雄 鹿兒島中學

西 盛宜 藥局生
 保田憲一 桃山中學校
 岩倉ツネ 鹿高女
 竹下レノ 大阪高女
 文園松代 市立興業
 岩倉トク 鹿高女
 保井ルリ 同
 明石はるみ 同
 都 カヨ子 一高女

二三四
 京城社會主事 一 俳優
 少 尉 二 准尉
 經濟學士 一 小學校教員
 中學校教諭 一 高商出
 大學校在學 二 慶應在學
 中學校在學 九 女學校
 七

○當字現在の人物

辯護士 二 醫學博士 一
 高文合格刑務所長 一 醫學士 二
 法學士 一 高等船員 二
 滿洲警正 一 警視廳警部 一

(九) ふるき修學生及卒業生名簿

●東校時代

三 島 玉 丈(故) 盛 謙 要 田 畑 善 積
 山 元 部 仁 碩 良 榮 質(故) 以上五名

●沖名小學校

上 督 實 積(故) 小 野 直 心(故) 曆 則 有(故)
 關 豐 傳(故) 重 永 保(故) 圓 峯 哉
 岡 榮 碩 (以上田畑氏談)

同沖名小學校

秋 月 則 榮 池 田 池 明 西 元 禎
 明 石 安 文 勝 保 哉(故) 有 熊 實(故)
 南 島 豐 川(故) 三 島 富 章(故) (大野)實 亮 要
 小 野 昌 寬(故) 吉 田 元 龍 博 元 豐(故)
 小 野 晶 雄 曆 則 要(故) 榎 本 直 榮(故)

保	柏	南	大	進	薰	嵩	橋	澄	吉	保	繁	中	潤	西
		島	井				口	內	崎	山	村			禎
豐	常			澄	貞	良		丹				爲		
		治	禎				養	盛	里	喜	元			
綱(故)	生	明(故)	碩	廣	水	榮(故)	人	碩	迪(故)	成	則	政	孫(故)	明(故)
	龜	重	保	進	小	宮	嵩	西	渡	喜	園	泰	(以上秋月氏談)	泰山部仁政
壯	常	禎	謙	安	信	生	池	元	謙	直	實	政		
文(故)	滿	吉	榮	綱	照	淳(故)	生(故)	理	政	要(故)	禎	元		
西	登	思	南	堅	樹	契	應	寶	大	進	樹	强		中
			島					瀨						督
兼	源	榮	長	時	直	貞	實	壯	榮	盛	藤	武		三
明(故)	適(故)	任	要(故)	績	養	生	益(故)	德(故)	盛	水	榮	繁		庭(故)

勇	三	芝	寶	盛	中	嶺	泰	三	武	喜
	島			督				島	良	山
禎	兼	政	德		善	政		行		
	顯			龍						
厚(故)	義(故)	哉	孫	英(故)	迪	秋	立	義(故)	攝	生(故)
勝	壯	小	菖	盛	碓	山	泰	三	都	菖
		野						島		
玉	時		祐	謙	保	浦	安	豐	養	
	昌							豐		
水	嶺	照(故)	要(故)	德	正(故)	春(故)	立(故)	二	生	豐
(以上小野昌雄氏談)	能	勇	芝	進	盛	中	園	西	嶺	台
						督	田	兼	傳	榮
	行	行	祐	澄	謙	實	部	戶		
						長	英	央(故)	哉	德
	實(故)	榮(故)	英(故)	益	正					

○明治二十九年三月三十日卒業生 東尋常小學校
中督 三庭(故)

重 定吉
保 武富農業

三島 顯義(故)
恩 豐滿農業

三島 豐二
文 知弘(故)

要 常有農業
朝鮮慶尙南道梁山郡熊上面農民訓練所内
本籍地

○明治三十年三月三十日卒業生
山郡 志滿(故)

文 知親(故)
穰 則澄

盛 謙照(故)
中督 正吉(故)

樹 常雄(故)
勇 禎厚
要 常明
西 兼央
保 良榮
○明治三十一年三月二十八日卒業生
都 政義農業
文 良正(故)
本籍地

○明治三十一年三月二十八日卒業生
慶 德悅農業
本籍地

勉 武貞(故)
北 祐榮(故)
樹 昌心農業
本籍地

稻 要生(故)
能 行實(故)

明治二十九年九月十六日半途退學

半途退學

大島名瀬へ移轉ニ付半途退學

勝 藤 信(故)
山 浦 春(故)

○明治三十二年三月二十八日第四號丁卒業生

櫻 良 攝 農 業 本籍地
備 榮 良 同 同
良 豐 質 同 同
喜(川畑)直 人 同 同

The & Yando Neie paut Hotel 545 gnant Aul san fean cisco Calif
U S A

進 實 政
酒 壯 則(故)
泰 安 賀
丹 安 照
丹 常 積
三 島 彰 三(故)
柏 元 德(故)

1140

○明治三十三年三月二十八日第五號戊甲卒業生

葛(宮島)豐 益 農 業 本籍地
崑 實 生 同 同
田 畑 マツ 二 農業並ニ商業 本籍地
南 純 嶺 治(故)
都 豐 寬 農 業 本籍地

明治三十五年二月二十九日卒業

大島名瀬移轉ニ付半途退學

○明治三十三年三月日第六號戊乙卒業生

文(文園)政 彰 養鶏ト園藝 鹿兒島市長田町一七六
登(岩倉)三 輔 紬 商 鹿兒島縣大島郡喜界灣
盛(上園)德 寬 農業機業 本籍地
賦 仲 厚(故)

○故明治三十四年三月二十日甲第七號卒業生

堅 時 文 農 業 本籍地
要 安 程

明治三十二年三月二十八日卒業

同

二四一

明治三十四年三月二十日卒業

二四二

有限 哉

本籍地

同

扶常 豐

同

勝玉 重

同

本籍地

內田 晟照

同

同

○明治三十四年三月二十日甲第七號

半途退學

在郷

富兼 有

農業

本籍地

上督 龜吉

農業

本籍地

岡本 榮久

水利組合係

朝鮮慶尙南道密陽郡初同面初同水利組合舍宅内

福正 屋

東京市

中督 實保(故)

本籍地

磨彦 龍(故)

農業

本籍地

鼎政 澄

船員

東京市丸ノ内國際汽船會社

能與 喜西

砂糖代理人

本籍地

清澄丸

樹行 有 農業 本籍地

勝三 積 農業 本籍地

田畑 幸知 賀 同 同

忠藤 豐 農業 本籍地

三島 玉英 紬、織物代理人 同

三島 通義(故)

同

三島 久吉

大阪府守口町五〇二

明治三十三年三月三十一日沖繩縣糸滿移轉

求嶺 富

農業

本籍地

文(園田)源吉

農業

本籍地

勇喜 久榮(故)

農業

明治三十六年三月二十七日卒業

勝重 信

農業

同

沖保 迪(故)

農業

明治三十五年三月十九日卒業

泰安 益(故)

農業

同

良盛 儀

農業

本籍地

○明治三十五年三月十九日乙第八號卒業生

二四三

穂 マ ツ
 重 マンヅル
 三島 ウメナベ
 登 オメナベ
 三島 エカ
 有 アチヤ(故)
 思 シロウ
 備 イシマツ
 泰 センツル
 保 チヨ
 木元 チクマツ
 西 ニシ
 酒 清一(故)
 薫 利道 農業 本籍地

○明治三十五年三月十九日甲第九號卒業生

半途退學

半途退學

半途退學

明治三十四年三月二十日修業

明治三十四年八月十一日死亡

半途退學

明治三十二年四月一日大島名瀬移轉

明治三十四年三月二十日卒業

保 豊道 同 同
 梢 實淳
 實 亮徹
 諫 常豊(故)
 濱川 政津美 農業 本籍地
 芦 祐章(故)
 慶 嶺盛(故)
 南 政明(故)
 文 正隆 農業
 丹 常廻
 潤 美好
 赤 崎要文(故)
 岩 省榮 農業 本籍地
 思 喜美志
 柳 貞秋(故) 農業 本籍地

明治三十四年三月二十日卒業

明治三十六年三月二十七日卒業

堅謙吉
重登玖與
重福態
上督嘉豐
廻(増田)安廣
富長吉(故)
岩崎時二

鹿兒島市易居町四十五番地

同

Ma t iwojoki Neie jraut Hatel 545 Gnaut oul

son fran cisco Calif U. S. A.

Ma s kanami ph 8 Do 967-7 saatee, jhesh U. S. A.

要 スイマツ

○明治三十六年早町尋常高等小學校小野津分教場

アメリカ

眞健重
都福常
尾廣志(故)
保兼賀(故)
富英傑(故)

鹿兒島市刑務署長官舎

壯豊吉 大阪

沖保禎(故) 農業 本籍地

關常哉 農業

三島豐助(故)

藤富和賀

赤崎要心

上督則積(故) 船員

泰玉悅

照直行

福藤富

有隈英(故) 農業

泰行繁 農業 在郷

廻(増田)安廻 農業 本籍地

中文マツ 農業 在郷

練(村上)常民船員	南(野上)政平農業	柳成次(故)同	福(柏木)友和同	進政網同	上督政嘉二農業	稻祐圓船員	上督嘉昌同	泰安碩農業	實盛亮同	勝繁吉農業	益兼宜志(故)農業	直實澤農業	泰時雄	保兼吉醫師
	大阪商船株式會社波上丸												大阪市港區	

岸ウメニヤ同	芝マンガメ農業	南島ジロウ	南オメナベ同	卷カネマツ同	小野(川畑)カメツル農業	梢イシ	田畑(吉本)アヲバ農業	港マンガメ農業	南文積	西榮吉農業	香富宜志農業	長重廣(故)農業	里畑(上野)里秋農業	綠治昌(故)農業
	志戸桶													

濱川 オメト(故)
 南 オトマツ 農業 在郷
 要 オトマツ 農業 在郷
 賦 ジロウ(故) 農業 在郷
 鼎(岩崎) アツチャ 農業 在郷
 富 マンズル
 沖(岡本) エイ 家事手傳 大阪市港區石田布屋町三丁目
 武 キク 大阪市
 登 エイヅル 農業 在郷
 中 督エカ(故) 農業 在郷
 關 アツチャ 農業 在郷
 向 アツチャ 鹿兒島
 重 イシ(故)
 小野(野上) オメト 在郷
 繁 タツ(故)

岡 オメマツ 農業 在郷
 正 ツチマツ 農業 在郷
 都 カメマツ
 良 イシマツ 農業 同郷
 港 オトガメ 農業 在郷
 明治三十八年三月二十日修業證授與
 ○明治三十八年早町尋常高等小學校小野津分教場
 卷(福山) 榮賀 機業商 在郷
 弘 道程
 重 政彦
 勉 武一
 赤崎 要吉(故)
 藤 富安 農業 在郷
 寶 爲圓 農業 在郷
 堅(岩崎) 時義 農業 在郷

明治四十年三月三十日授與



明治三十九年小津尋常小學校卒業生は

同三十八年卒業生と同一に付記載省略



○明治四十年小野津尋常小學校卒業生

丹	源	一
酒	澄	仙
上	督	實
保	兼	助
濱	川	貞
濱	川	治
濱	川	直
濱	川	助

豊	シ	ウ	マ
照	ヨ	シ	マ
要	チ	ヨ	ベ
穂	ナ	ベ	
備	ヤ	ス	マ
嶺	オ	メ	ト
保	ア	チ	ヤ

明治四十一年三月十六日授與

○明治四十二年三月二十七日修業生 早町校尋常科第六學年卒業生

岸	爲	吉
弘	道	程(故)
關	豊	吉(故)
堅	時	義
基	政	吉
諫	常	民

南(野田)政平 農業 本籍地
 卷榮賀 賀 賀
 勉武一 西
 直實 西
 慶(安田)カネ 家事手傳 アメリカ
 堅(保立)トキ 農業 本籍地
 基(基岡)イシ 同 同
 ○明治四十三年三月二十四日修業生
 上督嘉昌
 酒澄仙
 丹源一(故)
 上督實吉
 保(保元)兼助 農業 本籍地
 穂(保元)ナベ 同 同
 保(保田)アチャ

○明治四十四年三月三十日修業

尾常一 刑事 大阪市
 岸爲照 刑事 大阪市
 盛文義
 光元初喜
 梢喜美淳
 柳莊助 船員 神戸市海岸通り日本郵船會社汽付御嶽山丸
 碓(篠原)隆一 船員 神戸市海岸通り日本郵船會社汽付御嶽山丸
 契貞弘(故)
 廻安吉 柔道養成講習所 臺灣
 良富宜志
 今家祥嘉
 上督富隆
 扶武常
 保(中川)莊川 職工 大阪市此之花區櫻島北之町五三番地

南(野田)政 吉 農業 本籍地
 思(長田)謙 輔 準尉 臺北市乃木町三ノ一陸軍官舎内
 實 實 廣 船員 神戸市榮町通二丁目川崎汽船會社青山丸
 小田 滿 顯
 廻 誠 廣
 勝 玉 吉
 沖(松崎)ま つ 農業 本籍地
 汀(吉浦)ま つ 同 同
 曆 千 代 同 同
 澄 じ ろ う プラジル
 中督(篠原)ま つ 農業 本籍地
 ○明治三十七年三月卒業(但シ第一回ナシ)早町校第二回高等科卒業生
 登(岩倉)三 輔 綈業商 鹿兒島縣大島郡喜界村灣
 南 島 純 二 農商業 本籍地
 文(文園)政 彰 校長 鹿兒島縣大島郡早町村小野津校

進(安田)實 政

アメリカ、ロサンゼルス

○明治三十八年三月卒業生 第三回高等科卒業生

鼎 々 圓 船員 東京市丸の内國際汽船會社、清澄丸

富 池 三 東京市

勝 玉 重 農業 本籍地

岡(岡本)榮 久 水利組合係 朝鮮慶尙南道密陽郡初面初同水利組合舍宅

忠(忠岡)藤 豐 農業 本籍地

○明治三十九年三月卒業生 第四回

三 島 通 義(故)

三 島 玉 英 農業 本籍地

堅 謙 吉

丹(明石)常 迪 水道係 大阪市港區田中元町三丁目一四二番地

○明治四十年三月二十四日卒業生 第五回

崧 長 吉(故)

謙(茂田)常 喜美 機業商 本籍地

柳 成 廣(秀明) 郵便

大阪市港區魁町五ノ一〇 安マ様方

廻(増田)安 廣 下駄商

鹿兒島市易居町四十一番地

○明治四十一年三月十七日卒業 第六回

光(光井)則喜美 機業

本籍地

文 莊 吉(故)

盛 平 態(故)

櫻 則 三(故)

慶(繁山)德 成 職工

尼崎市昭和南通リ八丁目二百十二番地

勝 芳 端 農業

○明治四十二年三月卒業生 第七回

尾 廣 志(故)

博 豐 明(故)

廻 安 廻 農業

本籍地

保 謙 賀(故)

都 福 常 刑務署

鹿兒島市長吉町刑務署官舎

盛 盛 孫

渡瀬大連市内

向 いしまつ 機業

鹿兒島市

○明治四十三年三月卒業生 第八回

泰 時 雄 不明

アメリカ州

保 兼 喜 知 醫者

大阪市港區國津橋停留場前

穗(秋月)顯 豐 校長

大島三方村小湊小學校

泰(安田)行 繁 農業

本籍地

廻(長岡)安 豐 散髪屋

大阪市港區北八幡屋町一丁目一五五番地

柳 成 次(故)

泰 安 碩 農業

本籍地

西 榮 吉 同

本籍地

○明治四十四年三月卒業生 第九回

岸(保立)爲 吉 會社

尼崎市長洲杭ヶ本三三番地

弘 道 程(故)

諫(村上)常 民 船員

大阪商船株式會社波上丸

直(直島)實 西 農業 本籍地
 堅(岩崎)時 義 農業 本籍地
 基(吉浦)政 吉 農業 本籍地
 卷(福山)榮 賀 同 本籍地
 岡(岡本)榮 顯 鐵工所 同
 關 豐 吉(故)
 勉(花岡)武 一
 盛 隆 義(故)
 ○明治四十五年三月卒業生 第十回
 丹 源 一(故)
 上 督 嘉 昌 農 業 本籍地
 酒(吉村)澄 仙 農 業 本籍地
 ○大正二年三月卒業生 第十一回
 岸 爲 照 警察官 大阪
 尾 常 一(故)

上 督 實 吉(故) 本籍地
 扶(高田)武 常 農 業 同
 勝 玉 吉 同 アメリカ
 棺(岩田)喜美 淳 不明 本籍地
 盛(上園田)文 義 農業 大阪市港區田中元町三丁目一四二番地
 實(吉岡)實 廣 電車乘 大阪市港區市場通り三丁目一ノ二番地
 廻(河上)誠 廣 瓦斯會社 不明
 上 督 富 隆 船 員 本籍地
 曆(曆本)千 代 農 業 本籍地
 今 家 祥 嘉 船員ノ目的 神戸市港區馬場町二百十一番地
 光 之 初 喜(故)

鹿兒島縣大島郡小野津小學校

卒業生名簿 (昭和十三年七月末現在)

二六六

■第一回卒業(二六名) 明治四十四學年度

氏名	職業	住	備考
富(池田) 幸吉	農業	在郷	
樹(曆本) 實徹	同	同	
正(正岡) 直吉	船乘	音信不達	
喜(南) コハイ	農業	在郷	
筑 富常(故)			
諫(篠原) 常介	職工	大阪市港區石田神樂町一四ノ二五	
堅 英二(故)			
勉(花岡) 武三	在郷		
卷(松岡) 常吉	農業	在郷	
有 限五郎	同	鹿兒島縣大島郡早町村伊實久	

南 富平	同	在郷
秀(秀島) 盛吉	市役所勤務	福岡縣八幡市新明町四丁目
綠 政道(故)		
保 タツガメ(故)		
濱川 直助		アメリカ
柳(眞) 武助	職工	大阪市港區田中元町三丁目一八九番地
上督(赤崎) カメ	家事手傳	大阪市港區南八幡屋町一丁目一七五 藤原様方
盛(福澤) カメ	農業	在郷
里(吉野) 道信	同	同
稻 則靜(故)		
求(平野) 義玄	農業	在郷
湊(港) オメ	同	同
赤崎 カネ	同	同
柏 元七(故)		
勝(直島) シロウ	農業	在郷

二六七

文(吉野) タ ツ 同

■第二回卒業(二九名) 明治四十五學年度

橋(津田) 知 隆 一等運轉士 大阪市西區北堀江通四丁目白洋船汽株式會社 大和丸

西 謙 亮 法學士 東京市本郷區春木町二丁目一一番地

思 源 義(故)

文(中督) 毅(故)

堅(大井) 豐 一 通船業 大阪市港區八幡屋錦町一七九番地

直 實 行(故)

穗 イ シ 農業 在郷

慶(吉山) 泊 利 同

富 宮 吉(故)

登 則 道 農業 在郷

李(寶井) ウメナベ 同

基(松岡) スエマツ 同

長 マ ツ(故)

堅(前田) 時 宗 農業 在郷

關(大村) 豐 七 同

宮(宮本) 宮 助 職工 大阪市港區九條南通一丁目七四〇番地

關 安 二 アメリカ 在郷

保(保本) 龍 德 農業 在郷

丹(登) トク マツ 同

碓(篠原) シロウ 家事 大阪市港區石田神樂町一四ノ二五

備(野口) ナ ベ 農業 在郷

酒(大島) 精 二 同

強(野島) 豐 榮 職工 尼崎市昭和通五丁目一八七番地

寶(寶井) 宮 佐 賀 アメリカ 在郷

契 オ メ ト 農業 在郷

鼎 ナ ベ(故)

泰 センツル(故)

賢(田畑) マ ツ 農業 在郷

勉 イシマツ(故)

二七〇

■第三回卒業(三四名)大正二學年度

文(山元)正 宜	鉛版業	東京市小石川區戸崎町一三
今家(吉山)ジロウ	家事	在郷
盛(吉園)禎 德	新聞販賣所	東京市深川區高橋一ノ一二
泰(守内)部 仁重	會社職工	大阪此花區櫻島北之町七十三番地 津様方
柳 秀 吉	職工	大阪市港區八幡屋町
沖(吉岡)ウ ト	農業	在郷
光(光井)喜美信	店員	Mr. K. Mitsui 320 n. west marel and st Lasangels Calif U. S. A.
土(良)謙 助	農業	在郷
山(都)ヨシヅル	教員	同
葛(守内)ナ ベ	農業	同
登(岩井)源 輔	塗班業	東京市豊島區池袋七丁目二〇一〇番地
三島(西)ウ シ	農業	在郷
等(正岡)マ ツ	同	同

早町小學校勤

岸(尾野)チ ヨ 同 同

武(宮本)ナ ベ 同 同

堅(大井)ヒ デ 家事手傳 大阪市港區八幡屋錦町一七九番地

穂 ユ キ(故)

盛(森徳心)徳 治 店員 京都市伏見區下槇樋町二七番地

良(良野)安 逸 船乗 北海道小樽

都 繁 利 農業 在郷

勝(勝本)玉 信 同 同

嶺(長島)定 義 市役所勤務 大阪市港區千代見町四丁目三番地

勉(吉岡)キ チ 農業 在郷

田畑(秋月)シ ゲ 家事 鹿兒島縣大島郡名瀬町伊津部五〇〇番地

岩(野田)チ ヨ 農業 在郷

保 マ ツ(故)

正 オ メ(故)

濱川(照島)カ ネ 農業 在郷

二七一

鼎 オトト 農業 在郷
 小田(稻) オトト 農業 在郷
 泰(守内) イシ 同 同
 瀧 ウトト
 竹(竹木) ヤス(故)
 西 ヨシ 臺灣臺南市安平二五二番地 村崎様方

■第四回卒業(四六名) 大正三學年度

岡 爲輔 醫博 東京市大同生命社内
 喜(川畑) 春則 職工 大阪市港區吾妻町三丁目一番地南村平様方
 武 長義(故)
 丹 浦豐(故)
 丹(明石) 浦喜美 株式会社勤務 滿洲國奉天省開原縣石家臺開豐鐵道株式會社
 丹(明石) 眞一 船乗 大阪商船會社扱ヒ 榮生丸
 登 政彦(故)
 澄 飛虎也 アメリカ

Mr. M. Kiyota 1416. 2nd west 37th. st., Los Angeles California U, S, A.

中(清由) 政隆 警正 滿洲國黑河省屬浦國境警察隊本隊長
 照(上野) マツ 農業 在郷 神戸市葺合區神若通り四丁目十二番地
 強 ウシマツ 同 同 大阪市港區八屋町一丁目三〇三番地
 宮 トミ(故)
 益(貴島) 顯二 職工 大阪市港區吾妻町三丁目一番地
 樹(樹木) 直二 職工 在郷 北海道空知郡三笠山村字唐松親幌成鑛業所 糸田健次方
 向(津田) 行李 商業 大阪府泉南郡日根野駐在所内
 南 村平 職工
 龜(吉倉) 滿義 農業
 實 澄吉 農業
 勉(橋口) マンガメ 職工
 福(福島) 藤武 職工
 三 島エカ 農業
 三 カメ(故)
 宮(上園田) フジ 農業 在郷

西オモイ(保田靜子) 家事手傳 大阪市西區本田町通三丁目一四番地 保田産婦人科院内
 諫(川畑)ナベ 農業 在郷
 關 アチャ 同 同
 賢(高濱)土巳 船大工 神戸市神戸區榮町通三丁目 山下汽船株式會社永福丸
 橋(橋口)豊飛虎 農業 在郷
 綠(平野)チヨ 同 同
 保(保崎)傳吉 船員 廣島市松田商會 大和丸
 實 喜吉(故) 在郷
 實 イシ(故) 農業 在郷
 廻 カネ(故) 農業 在郷
 小田 カネ 農業 鹿兒島縣大島郡早町村佐手久
 里 オト(故) 農業 在郷
 中(吉内)オトマツ 農業 在郷
 薰(宮崎)藤重 船員 大阪市大正區泉尾松町三丁目二七九 柘園丸
 田畑 兼一 農業 在郷

薰 勇山(故) 神戸市北長狹通五丁目 内外汽船會社神龍丸
 保(保村)泰治 船乘 アメリカ
 寶 藤豊 職工 神戸市葺合區筒井町三丁目三六號
 進(島崎)盛廣 職工 アメリカ
 寶 政重(故) 農業 鹿兒島縣大島郡早町村大字伊實久
 堅 辰仁 農業 在郷
 保 ウシ(故) 農業 在郷
 實(實田)亮助 農業 在郷
 強 ジロウ 同 在郷

■第五回卒業(五〇名)大正四學年度

西 兼彦(故) 大阪市大阪商船株式會社大昭丸
 臺 榮市(故) 船乗カジトリ
 穂(秋月)爲豊 船乗カジトリ 大阪市大阪商船株式會社大昭丸
 樹 四吉(故) 船乗カジトリ
 關 豊佐久 工具 神戸市川崎造船所造機部工作課事務所

小野 喜元
 堅(大井) 豐二 商業(萬年社)大阪市住吉區邊元町七ノ三〇番地
 良(野村) 茂照 警部補 臺中州北斗郡役所
 富 富隆(故)
 保 謙三(故)
 港 政三 在郷
 勇 濟熊 自動車會社 東京市世田谷區中根町二八
 盛(上園) 幸助 船乘 未定
 西 重市 農業商業 在郷
 實(吉岡) 季禎 農業 同
 直(直島) 隈比古 船員 東京市麴町區九ノ内一丁目 國際汽船株式會社衣笠丸
 楓 澄豐 役者 始良郡國分町 芝居所
 香 富積 農業 在郷
 酒(大島) 晟徹 職工 大連市若菜町七一番五ノ十一
 磨(上園田) 嶺文 巡查 東京大森區池上本町二五九番地

神戸市内以下不明

堅(岩崎) 辰二
 柏 道利(故)
 關(野島) 元輔 職工 尼崎市難波通四丁目九一番地
 鼎(金江) 實一 農業 在郷
 嶺(長島) 善作 職工 神戸市葺合區大日通り五ノ五五番地
 求 義益(故)
 思(井上) ナベ 農業 在郷
 嵩(高山) マツ 同 同
 賦(筑) シロウ 同 同
 契(野島) トミ 農業 在郷
 正(要) スイマツ 家事手傳 アメリカ
 念(眞) イシ 家事 大阪市港區田中元町三丁目一八九番地
 勝(勝本) タツ 農業 在郷
 壯(勝岡) パツ 同 同
 念(島崎) ナベ 同 神戸市神戸葺合區筒井町三丁目三六號

良	イ	シ		
思	ナ	ベ	農業	在郷
赤崎(實田)	スイ	同		大阪市東成區中道通二丁目六二 魚住方
勉(花岡)	カンマツ	同		
實(博)	チヨマツ	同		
盛(高濱)	ヨシヅル	同		
關(櫻井)	ジロウ	同		
龍(高木)	マツ	同		
等(保崎)	カネ	同		
泰(安田)	カネ	同		
賦(香)	タケヅル	同		
實(野島)	友吉	同		
長(長田)	マンヅル	家事		臺北市東門町一五八番地
賢(吉澤)	行勉	船員		尼崎市長洲町杭ケ本二六番地ノ一
嶺(樹本)	工力	家事		神戸市葺合區神若通り四丁目一二番地

■第六回卒業(四六名) 大正五學年度

盛(中督)	熊吉(故)			
思(井上)	義照	養鶏		大阪府布施市長堂三ノ三九御幡様
櫻	賀文(故)			
生(村田)	恭信	運轉手		大阪市東淀川區元今里南通り一丁目二 中川様方
磨(泰山)	部仁央	農業		在郷
卷	常基(故)			
三島	五十八	巡查		大阪府木津川水上警察所
嚮(津田)	兼志	商業		Mr. K. Tsuda 13 w. 17 st N. Y. C.
丹(明石)	浦吉			不詳
益(益田)	義宏	職工		神戸市葺合區宮本通五丁目七二番地
泰(樺山)	政喜美	船乗		東京市丸ノ内郵船ビル内 鍋木汽船株式會社氣付立神丸
廻	安頼(故)			
保	兼益(故)			
眞(北岡)	嶺武	農業		在郷

有(有岡)限要職工 大阪市此花區西島町三六番地
 勉(花岡)貞照同 大阪市此花區四貫島笹原町四 山岡様方
 念文 文 吉(故)
 濱川 彦 次(故)
 瀧 長 一 アメリカ
 岡 滿 照 船 乘 神戸市海岸通り一丁目 日本郵船株式会社さいばん丸
 上 督 實 賀 二 農 業 在 郷
 三(高山)政 治 同
 丹(明石)浦 仁 船 乘 大阪市港區八幡屋元町一丁目 飯野汽船會社彦島丸
 嵩(山品)武 雄 菓子屋 鳥取市立川町二丁目
 碓(辻)(内田)隆 二 商 業 Mr. T. Uchida 70 nr. Utopora 32 m. westimarelahaul
 Los Angels Calif U. S. A
 有 限 二 農 業 鹿兒島縣大島郡早町村大字嘉鈍
 泰(守内)部仁吉 Mr. B. Moriuchi 345 ulou tic. st. stan bord conn. U S A.
 今 家 き く(故)

筑 オ メ 農 業 在 郷
 文(増田)マ ツ 家事手傳 鹿兒島市易居町四五番地
 基(倉園)マ ツ 農 業 在 郷
 文(花田)ア イ 喫茶店 大阪市港區市場通り一丁目一〇番町 花岡喫茶店
 文(岡)イ シ 家事 神戸市灘區灘北通二丁目二二二一
 都 エ カ 農 業 在 郷
 備(神田)ウ ト(故)
 福(薫)マ ツ 農 業 在 郷
 濱川(大村)オメナベ 同
 泰(西)ウトウツ(故)
 小 田 ス イ(故)
 保(賦)マ ツ 農 業 在 郷
 賦 シ ロ ウ 同
 嶺(吉倉)フ チ 同
 益 ヤ ス 同

勝(吉岡)チヨ 同
 求(惠)オメナベ 同
 小田(泰)オト 同

■第七回卒業(四三名)大正六學年度

久田(吉田)元太郎(故) 農業機業 在郷
 宮(宮本)隆助 商業 同
 光(光井)元之 農業 同
 西(清)清義 不明 同
 菖(吉内)豊久 不明 同
 澄(澄岡)清太郎 不明 同
 寶(政)政武 不明 同
 橋(中督)豊隆 不明 同
 正(常)常美(故) 不明 同
 今家政津知(故) 不明 同
 關(順)三 不明 同

神宮區長

Mr. J. Najima 345 atlan tic st strom fo:d Conn U S. A.

契(米澤)貞吉 在郷
 中督(正木)重助 在郷
 酒(大島)精之 在郷
 西(重)重彦 在郷
 實(津島)生文 在郷
 有(限)限助 在郷
 良(野村)カメ 在郷
 李(泰山)カメ 在郷
 穂(秋月)マツ 在郷
 強(北岡)カネマツ 在郷
 北(チ)チヨ 在郷
 南(カメヅル)カメヅル 在郷
 樹(樹木)オメト 在郷
 堅(金江)マツ 在郷

東京市日本橋區室町二丁目一番地 加茂川丸
 大連町若菜町七一番五ノ十一
 Mr. wert Nishi cio toasted sandwich shon 2 west 116 th street
 New york city. N. Y. U. S. A.

登(山元) エ イ(故) 家事手傳 東京市小石川區戸崎町一三
 喜 イ シ(故)
 沖(長岡) チ ヨ 家事 大阪市港區石田布屋町三丁目一三五 岡本様方
 保 カ ネ 農業 在郷
 尾(池田) オ ト 同
 三島(南島) マ ツ 商業家事 同
 保 セ ン 農業 同
 中 督 マ ツ 家事手傳 大阪市港區石田元町一ノ五〇 山野井秀太郎様方
 賦(勝本) タ キ 農業 在郷
 益(貴島) イ シ 同
 求(大島) ジ ロ ウ 家事 大連市若菜町七一番地五ノ十一
 諫 チ ヨ(故)
 薰 チ ヨ 農業 在郷
 勝 カ メ(故)
 柳(長島) ヨ シ 家事 大阪市港區千代見町四丁目二番地

勝 キ ク 農業 在郷
 思 榮 輔 同
 正 マ ツ 鹿兒島市新屋敷町一八九番地 丸田様方

■第八回卒業(二九名) 大正七學年度

富 德 造(故)
 内田 治 右衛門(故)
 櫻(櫻井) 義 二 アメリカ
 都 豐 實 運轉手 東京市目黒區中目黒四丁目一三〇九
 上 督 政 熊 農業 在郷
 保(保本) 富 彦 運轉手 大阪市此花區大開町二九番地 畑中様方
 田 畑 兼 二(故)
 梢(米澤) 宗 吉 職工 尼崎市昭和通り八丁目一九六番地
 小 田 兼 滿(故)
 鼎(金江) 政 二 船 乘 神戸市榮町通二丁目 川崎汽船株式會社インデアー九
 吉 倉 實 彦 職工 大阪市港區石田布屋町三丁目一三五 岡本方

求 義 一(故)
 都(樺山) 靜 子 農業 在郷
 文(園田) ヨ シ 農業 大阪
 嚮(津田) マ ツ 農業 鹿兒島市
 岡(岡本) ヒ サ ツ 同 同
 泰 マ ツ 家事 大阪市此花區櫻島北之町七三番地
 臺(臺司) マ ツ 農業 在郷
 等(照島) エ カ ツ 家事 神戸市葺合區日暮通二丁目八三番地
 堅 ヤ ス 故) 農業 在郷
 堅(赤崎) チ ヨ 農業 同
 磨 イ シ 同 奈良縣御所町省線驛前 青木駒次郎様方
 岩(野田) ジ ロ 農業 在郷
 庸 カ ネ 農業 同
 思 ジ ロ ウ 同 兵庫縣尼崎大物町三丁目四一九番地
 生(與那嶺) イ シ 家事 同

賦(津村) カ ネ 農業 在郷
 崑 ジロ(月野フミ) 大阪市西淀川區加島町一四二番地
 福 アチャ(里スミ) 大島郡笠利字字宿

■第九回卒業(二五名)大正八學年度

良(中督) 晴一郎 機業 在郷
 山元(都) キチ 家事 東京市目黒區中目黒四丁目一三〇九
 梢(岩崎) カメ 農業 在郷
 田畑 マ ツ 故) 事務員 東京市豊島區池袋七丁目二〇一〇番地
 都 マ ツ 事務員 アメリカ
 南 實 義 同
 盛(上園田) 文助 同 在郷
 都 ヨ キ 農業 在郷
 進 ハ ツ 故) 家事手傳 大阪市港區石田神樂町十四ノ廿五番地 篠原方
 契(清田) チ ヨ 無電局長 神戸市神戶區明石町一八番地 日神海運富國丸
 堅(堅山) 豊三

康(吉崎) マ ツ 農業 在郷
 泰(泰山) 部仁吉 職工 神戸市葺合區筒井町三ノ三四〇
 賦源 熊(故) 農業 在郷
 南島(池田) トヨ 農業 在郷
 勇 マ ツ 家事 大阪市港區田中元町二丁目一五二番地
 保 オ ト(故) 農業 在郷
 寶 常興 農業 在郷
 有 限直 不詳
 赤崎 季武 農業 在郷
 有(有岡) 吉太郎 同
 保(保村) 實二 店員 大阪市港區辰巳町五丁目二三番地
 三(米澤) マ ツ 農業 在郷
 勝(豐岡) カ メ 農業 在郷
 穂(秋月) 實 鐵道員 東京府下北多摩郡下連在二二二番地

■第十回卒業(四五名) 大正九學年度

磨田(園部) 勇 東京市荒川區日暮里町三ノ六二五 市口様方
 武田 茂 臺灣臺南市安平二五二番地 村崎様方
 益 元 治(故) 神戸市榮町三丁目 山下汽船株式會社隆洋丸
 西 マ ツ 在郷
 樹(樹本) 藤政 船乘
 保(吉内) チヨ 農業
 北(光井) イシ 家事手傳
 今家(保本) イシ 同
 登 ジロ 農業 同
 直(有島) アキ 船乘 大阪市此花區西島町三六番地
 菫(吉内) 豊照 御用船 神戸市神戸區明石町三七番地 玉井商船株式會社岩手山丸
 實 亮吉
 有(島田) 德太郎
 忠(直島) ジロ 在郷
 尾(尾崎) マ ツ 農業 同

強(吉塚)	チ	ヨ	女工	大阪市住吉區阪南町東二丁目五番地 靜岡様方
小野	直	照	職工	尼崎市竹谷町二丁目七〇番地 綠寮内
慶(富崎)	オ	ト	農業	在郷
菖(吉内)	盛	吉	船乗	神戸市神戸區明石町三七番地 玉井商船株式會社伊太利丸
西	テ	イ	農業	在郷
龍(吉村)	イ	シ	農業	同
樺山	フ	チ(故)		同
堅(大山)	謙	二	同	同
濱川	政	一	農業	臺灣
内田(今家)	ジ	ロ	農業	在郷
嶺	マ	ツ	看護婦	大阪市立桃山病院内 吉井様方
崑(池田)	三	太郎	船員	横濱市中區元町一丁目四七番地
穗(村田)	千	代	家事手傳	尼崎市東難市營住宅三十號内
勝(豊岡)	繁	義	農業	同
益(明石)	セ	ン		同

李(吉原)	勇	作	船乗	西宮市本町三二番地 辰馬汽船株式會社染殿丸
峯(樹本)	チ	ヨ	家事	神戸市葺合區神若通り四丁目二二
南島	ヨ	シ(故)		大阪
進(清田)	安	彦	船乗	神戸市榮町二丁目 山下汽船株式會社智利丸
小田	季	吉(故)		神戸市灘區灘北通二丁目一二二番地
保(濱川)	兼	久	職工	
賦(西)	ア	イ(故)		
卷	善	駒(故)		
橋口		豊	船乗	神戸市榮町三丁目 山下汽船株式會社隆洋丸
薫(良)	利	吉		大阪市此花區櫻島北之町七三 津様方
正(正岡)	治	秋		大阪市港區田中元町五丁目一〇一ノ二 野口様方
澄(藤田)	ジ	ロ	家事	大阪市此花區櫻島北之町五三番地
保(保本)	ヨ	シ	農業	在郷
堅(松原)	フ	ミ	同	同

■第十一回卒業(四〇名)大正十學年度

良(野村) 忠好 社員 名古屋市西區背戸町一ノ一三 安福様方
 沖(津田) スエ 家事 福岡縣八幡市茶屋町四丁目
 柳(橋口) タツ 農業 在郷
 菅 祐一(故)
 思(井上) 禎助 大阪府布施市長堂三ノ三九 御幡様方
 秋(秋月) 田巽 役場書記 在郷
 中督 ナベ(徳江)
 田畑 タツ 同
 勇 芳太郎 農業 同
 峯(長島) 秋久 神戸市葺合區大日通五ノ五五
 三島 吉次郎(故)
 赤崎 オト 農業 在郷
 賦(濱田) 政仁 船乗 神戸市榮町 山下汽船株式會社じようこう丸
 崑(永野) 慶太郎 在郷
 壯(松原) 豊照 職工 東京市板橋志村清水町二八〇番地

堅(秋月) テイ 農業 在郷
 櫻(泰山) イシ 家事手傳 神戸市葺合區筒井町三丁目三四〇
 岡(吉倉) エイ 大阪市港區石田布屋町三丁目一三五 岡本様方
 酒(大島) ヒデ(故)
 南島 長二 店員 尼崎市西山町一四番地 旭日屋内
 求(平野) マツ 農業 在郷
 泰(守内) 兼行 船乗 神戸市海岸通川丁目 板谷商船株式會社大日丸
 賦 ヤス 農業 在郷
 中督 イシ 同
 有限 猛 同 不詳
 泰 仲吉 職工 神戸市葺合區筒井町三丁目四九號
 富(富崎) 盛照 神戸市神戸區元町二丁目二〇七 吉内様方
 土(土岐) 安一 不詳
 磨(保村) ハツ 農業 在郷
 基(正木) マツ 同

鼎(有)	イ	シ	同	
寶(南)	カ	ネ	同	
勉(花岡)	源	照	職工	大阪市北區魚根崎新町二丁目二十七 多幸様方
契	ジ	ロ(故)		
李(念)	オ	ト	農業	在郷
寶	オ	メ	同	
福利	種	子	職工	大阪此花區櫻島北之町七十三番地 津様方
思(野崎)	源	次郎	船員	大阪市西成區千本通 小野商事第十四オノ丸
生	チ	ヨ	家事	香川縣本田郡井戸村字川東
中(中村)	元	治	船乘	神戸市神戸區明石町三七番地 玉井商船株式會社岩手山丸

■第十二回卒業(四二名)大正十一學年度

崑(岩野)	實	吉	船乘	大阪市西區江ノ子島東ノ町 廣海商事會社廣盛丸
今家	今	美	同	門司市海岸通り 山九株式會社氣付第十五雲海丸
念部	仁	照	同	神戸市神戸區京町七九番地 南洋海運株式會社名古屋丸
正(正岡)	直	彦	理髮店員	神戸市神戸區元町二丁目三〇七 オリンピック理髮所内

南島	一	男	鐵工所	大阪市西淀川區加島町一二四ノ二 在郷
菖(北岡)	末	太郎		
西	森	義	學生	東京市牛込區新小川町一ノ二番地 西様方
泰(安田)	繁	二	船乘	神戸市海岸通り二丁目 神戸商船株式會社平雄丸
尾(尾崎)	岩	助	農業	在郷
上督	忠	一(故)		
嶺(小泉)	輝	章	印刷業	東京市小石川區柳町二四 在郷
勉(花岡)	新一	郎	農業	
廻(長岡)	親	治	アメリカ	
勝	玉	元(故)		
重	榮	府(故)		
勝(豊岡)	繁	助	船員	神戸市海岸通り 近海郵船會社吉の丸
宮(宮田)	源	介	船乘	神戸市明石町 明海ビル内青木商事會社第二青山丸
廻(保崎)	傳	次郎	警察署	滿洲國奉天市鐵中區齋賢街 警察官吏派出所
樹(樹木)	榮	介		大連市若菜町七丁目五ノ十一 大島晟徹方

進(清田)正彦	船乘	神戸市榮町二丁目 山下汽船株式會社浪速丸
嶺(小林)惠太郎	同	神戸市榮町三丁目 山下汽船株式會社隆洋丸
良(カメメ(故))	農業	在港
瀧(マツ)	農業	在港
康(吉崎)オメ	女工	大阪市殿區石田元町二丁目十四番地 小林方
盛(英)信	農業	東京市小石川區關口町一四五番地 正榮堂鉛版所
保(保井)セイ	農業	在郷
文(進藤)マツ	同	同
筑(マツ)	同	神戸市林田區御崎町二丁目一二九ノ一
卷(松)	農業	在郷
田(畑)チヨ(故)	農業	在郷
上(督)スエ	農業	在郷
橋(保崎)エイ	家事	滿洲國新京朝日通三九ノ二番地
澄(永野)カメ	農業	在郷
梢(岩田)タツ	同	同

■第十三回卒業(二十名)大正十二學年度

田(畑)マツ	女工	尼崎市杭ヶ本二三番地 小倉様方
樹(上村)マツ	農業	在郷
西(梅)	同	同
保(河上)オト	同	同
橋(ウメ)	同	同
都(岩井)セイ	家事手傳	東京市豊島區池袋二〇一〇番地
柳(アチャ)	女工	大阪市此花區櫻島北之町五三番地
登(長)マツ	農業	在郷
關(野島)豊志	九大(研究中)	福岡市外箱崎町 九州帝大法文學部
龍(松本)廣房	職工	大阪市此花區櫻島北之町七三番地 津様方
忠(忠岡)義一郎	軍轉手	大阪市住吉區阪南町西二丁目三一一番地 二葉莊
山元(片岡)テキ	家事	東京市小石川區戸崎町十三番地
今(家)マン(故)	職工	横濱市鶴見區管澤町二二八番地
三(島)彰	職工	

秋(秋月)龍一	職工	尼崎市東難波市營住宅第一〇三號 下園様方
強(吉塚)ナベ	農業	在郷
寶(南)山榮	船乗	神戸市神戸區榮町三丁目 山下汽船株式會社南滿丸
赤崎カネ	農業	在郷
内田オト(故)		
盛(吉園)シゲ	農業	在郷
三(高山)源二	職工	大阪市港區石田吳服町三丁目二〇番地 明石様方
思喜滿		不明
筑昌一郎	職工	神戸市花隈三ノ一 平井様方
益田(貴島)喜六	農業	在郷
柳(小林)マツ	同	同
都豊一郎		不詳
實亮信	船員	運送船
武田輝(故)		
關(大村)カネ	農業	在郷

小田 キチ 農業 同

■第十四回卒業(三八名)大正十三學年度

保(保本)富宜(故)		
綠兵吉(故)		
卷(豊岡)慶二	船乗	神戸市榮町三丁目 山下汽船會社西光丸
今家武澄	灸師	在郷
賦元一郎	同	同
都秀豊	刑務所看守	大阪市大正區鶴町二丁目七六番地 坂本様方
正直太郎		臺灣臺北市(以下不明)
保科(保井)榮	農業	在郷
關(今家)豊宜	船乗	大阪市 大阪商船株式會社四川丸
求(平野)武英	同	神戸市榮町三丁目 山下汽船株式會社第三吉田丸
進(進藤)賀太郎	運轉手	滿洲國齊々哈爾中央通 同和自動車工業株式會社
康(吉崎)喜美一	職工	大阪市港區石田布屋町三丁目一三九番地 碓山様方
喜(川畑)直隆	同	大阪市港區石田神樂町一四ノ二五 篠原常介様方

賦(濱田)	武一郎	船員	西ノ宮市本町三丁目 辰馬汽船株式會社染殿丸
嵩(池田)	善久	一等水兵	上海陸戰隊
盛	文德(故)		
南	島長夫	會社	大阪市港區南安治川通二丁目 山本商事株式會社
賦(津村)	スエ	家事	大阪市港區石田神樂町一四ノ二五 篠原様方
保(保村)	ヤス	農業	在郷
丹(明石)	マツ	職工	神戸市葺合區大日通七丁目一二二 下高様方
龜(吉倉)	チヨ	農業	在郷
直	スイ	同	同
思(井上)	マツ	同	同
勝	チヨ	同	同
堅	トキ(故)		
勉(花岡)	タヤ	農業	在郷
民(正岡)	マツ	女工	大阪市港區田中元町五丁目一〇一ノ二番地 野口様方
稻	マツ	農業	在郷

第十五回卒業(四四名)大正十四學年度

實(花岡)	スエ	農業	在郷
泰(松本)	マツ	同	同
岡	エイ	教員	荒木分教場
良	千代(故)		
壯(吉澤)	イシ	家事	尼崎市長州杭ヶ本二六番ノ一
嶺(小泉)	キク	農業	在郷
保(守内)	マサ	同	同
保	セン	同	同
請(岡)	ヤエ	同	同
有(寶)	イシ	同	同
園田	正一郎(故)	船員	
基	彦助	船員	海軍運送船 朝光丸
鼎(金江)	政太郎	船乘	神戸市榮町三丁目 山下汽船株式會社滿星丸
益(益田)	元四	職工	神戸市葺合區宮本通五丁目七二番地

重(大瀨) 永一郎	船乘	基隆市驛前 大阪商船株式會社基隆支店洋州丸
崑(尾張) 良一	農業	在郷
小田 季滿	同	同
堅(芳田) 時一	捕鯨船員	下關市 林金商店圖南丸
保(宮島) 料豐	船乘	西宮市本町三二番地 辰馬汽船株式會社福葉丸
明石 波一郎	不詳	不詳
内田 忠	戰地	
繁(繁山) 直志	職工	神戸市葺合區筒井町三丁目六六番地
梢(岩田) 善太郎	船員	神戸市栄町三丁目 山下汽船株式會社寶永山丸
山元 速雄	運轉手	東京市目黒區中目黒四丁目一三〇九
寶 政仲	兵隊	中支派遣稻葉部隊氣付川眞田部隊大浦隊第十六班
辻(松原) 林	不明	不明
嵩(永野) 慶次郎	船乘	神戸市榮町三丁目 甲斐商店大速丸
臺(野口) 常次郎	職工	大阪市港區田中元町一〇一ノ一
等(小野) 繁昌	同	八幡市外老町内

堅(岩崎) 義二	社員	朝鮮咸鏡北道白津本町 美喜家内
盛岡 孝		鹿兒島縣大島郡早町村字嘉鈍
禰(樹本) トシ	家事	神戸市灘區花園町一四〇番屋敷二五番地
卷(勇) ウメ	農業	在郷
梢(池田) アキ	同	同
橋(福) カネ	同	同
益 カメ	女工	神戸市葺合區宮本通五丁目七二番地 益田様方
寶 カネ	農業	在郷
北 千代	同	同
宮(吉原) キヨ	同	同
武(武田) ヨシ	同	同
思 マツ	同	同
備(南) シゲ	家事	大阪市港區北八幡屋町二丁目四八ノ一 村上様方
堅(島田) ウシ	農業	在郷
菅(吉内) カメ	同	同

更(塚本)	セ	ン	家事	神戸市灘區灘北通り二丁目二二番地
竹(安田)	ウ	メ	農業	同郷
三(尾崎)	イ	シ	同	同
濱川(長島)	ア	キ	家事手傳	同
李(今家)	フ	ミ	農業	同
臺(臺司)	千	代	同	同
契(米澤)	千	代	同	同
盛(園田)	マ	ス	家事	同
堅(南島)	マ	ツ	農業	同
生	セ	ン	同	同

進 一男 船乘

第十六回卒業(四〇名)大正十五學年度

有 限 吉 船員 神戸市港區播磨町十七番地 日産汽船株式會社
 峯 豐 信 農業 在郷
 進 一男 船乘 福井縣敦賀町 大田回漕部サイデリア丸
 大坂市 大阪商船株式會社ありぞの丸

重(大瀬)	忠	助	同	大坂市港區富島町 尼崎汽船株式會社波切丸
扶(高田)	富	照(故)	軍隊	臺中市歩兵一聯隊第十二中隊
思 豐 藏				大坂府北河内郡字口町字士居六三ノ一 在郷
櫻(櫻井)	義	彦		
直隈(直島)	俊	夫	兵隊	神戸市榮町 山下汽船株式會社愛媛丸
鯨(金江)	寅	吉	船乘	臺灣臺中市老松町五丁目二二番地
岩 本 清 隆			巡查	大坂市港區九條通三丁目五五二 小野方
穂(秋月)	三	千	年	鹿兒島市易居町四五 増田商店内
廻(増田)	正	良	店員	神戸市榮町二丁目 昭和ビル春和汽船會社春祥丸
龍(松本)	定	義	船員	
思 義 彦(故)				
良(良野)	平	太郎	職工	大坂市港區田中元町二丁目一五二 川村様方
三 島 進(故)				
保(保村)	ウ	メ	家事手傳	尼崎市長州江端 今井醫院内
岡 本 ッ ヤ			産婆	大坂市港區石田布屋町三丁目一二五
中(中村)	マ	サ(故)		
柳 イ シ			農業	在郷
穂(尾張)	ナ	ベ	同	同

都	直	強	閨	良	要	實	請	有	土	南	中	備	保	福	大	田	澤
ス	ウ	ト	ヨ	サ	チ	シ	メ	エ	同	同	同	女	農	農	家	農	政
同	同	同	無	農	家	農	同	同	同	同	工	業	業	事	業	業	吉
同	同	同	職	業	事	業	同	同	同	同	同	傳	傳	傳	傳	傳	不
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	詳
			鹿兒島市生産町二四	本大成旅館内	在郷	大阪市港區九條南通リ一丁目七四〇番地	在郷	同	同	大阪府泉南郡貝塚町	津田東洋麻絲會社内	在郷	同	尼崎市長州丸杭ケ本二三番地	在郷	同	不

第十七回卒業(五一名)昭和二學年度

生	進	小	北	稻	寶	樹	赤	慶	勉	宮	康	都	今	基	園	實	上
一	二	之	廣	榮	政	篤	要	廣	武	爲	喜	國	家	俊	政	源	園
直	輔	喜	喜	作	豐	與	市	信	彦	安	美	榮	昇	夫	彰	繁	德
兵	船	製	捕	戰	軍	船	船	教	海	船	船	町	町	船	職	同	船
隊	乘	本	鯨	地	隊	乘	乘	員	軍	乘	乘	工場	工場	乘	工	同	員
臺南市岡本部第二中隊第三班機關銃隊	神戸市神戸區榮町二丁目 山下汽船株式會社浪速丸	東京市小石川戸崎町七〇番地	下關市 林金商店圖南丸	稻葉部隊氣付竹下部隊山本部隊本部	鹿兒島四十五聯隊十一中隊	大阪市港區千代見町四丁目二番地 永島様方	大阪市 大阪商船株式會社藤影丸	鹿兒島縣大島郡灣尋常高等小學校	未定	大日本第二十一驅逐隊子ノ日第一分隊	神戸市 大阪商船株式會社がんぢす丸	東京市豐島區池袋町七ノ二〇一〇 岩井方	神戸市神戸區海岸通 濱根商店玉媛丸	大阪市港區吾妻町一ノ七 野中様方	大阪市港區八幡屋龜町二ノ二四八 吉村様方	東京市豐島區池袋町七ノ二〇一〇 岩井様方	神戸市榮町三丁目 山下汽船會社

小行李

故

川畑直哲(故)	兵隊	鹿兒島有馬部隊第二中隊第二班
保科創實	船乘	函館市船場町 近海郵船株式會社養老丸
筑富一郎	船員	神戸市神戸區播磨町十七 日産汽船株式會社彌生丸
岩榮重賀	商業	Mr. West Nilis c/o toasted sandwich shop
西重賀	商業	2 west 116 hstreet, Newyork city, N. Y. U.S.A.
繁山澄厚	船員	大阪商船株式會社 アフリカ丸
沖(松崎)テ	家事手傳	在郷
登契マツ	同	同
泰(泰山)ナ	農業	在郷
進(濱川)オ	同	同
薰(濱川)ジ	同	同
正(正岡)ト	家事業	神戸市灘區灘北通り二丁目一二一
李(野口)ツ	家事業	在郷
橋(橋口)イ	家事業	大阪市港區田中元町一〇一ノ二

■第十八回卒業(五一名)昭和三年年度

龜(吉倉)マツ	農業	在郷
勝(豊岡)千代	農業	在郷
都(野島)ヨシ	縣立病院事務員	神戸市湊區湊山町二三六
南島(野島)テル	農業	在郷
武田タケ(故)	同	同
正ナベ	同	同
朝イシ	同	同
上督ヤス	同	同
山ケサ	女工	大阪市港區石田棒町六五番地 善家様方
思トキ	はたをり	在郷
良キク	農業	同
壯(勝岡)トヨ	女工	尼崎市長州杭ケ本二六番地 吉澤様方
梢(米澤)サキ	農業	在郷
秋月(三島)ツル	家事	横濱市鶴見區管澤町二二八

鼎(金井)善吉	兵隊	基隆重砲聯隊第一中隊第三內務班
澤(吉澤)常章	軍隊	錦州省北大營宮崎部隊
高島忠彦	船員	神戸市神戸區明石町十八番地昭和汽船株式會社建國丸
堅文郎	船員	東京市京橋區八幡町一丁目一九番地運船部砲運丸
開常太郎	船員	東京市小石川區戶崎町五十三番地
益田傳吉(戰死)	印刷業	下關市林金商店 圖南丸
山元顯久	捕鯨船	大阪商船會社 アフリカ丸
米澤喜美圓	船員	神戸市葺合區大日通り五丁目四八番地
繁山澄哲	船員	在郷
高岡初喜順(故)	職工	兵庫縣西宮市本町辰馬汽船株式會社 白濱丸
葛(吉内)正吾	職工	在郷
吉田龍夫	教員	大阪市此花區櫻島北之町七四
寶(山元)樹心	船乘	
小田吉次郎	農業	
福島正夫	同	

泰(安田)茂助	職工	東京市小石川區戶崎町一三 山元様方
直實彦	職工	大阪市港千代見町四丁目二番地 永島様方
堅山忠一	職工	大阪市港區西田中町四ノ一六七 半田様方
茂田秀雄	職工	大阪市港區市場通三丁目一番地一
竹本オサ	農業	在郷
三島フサ	同	同
岡三和	同	同
柳ヨシ	同	同
磨(川畑)フミ	同	同
三島筆子	同	鹿兒島縣大島郡早町村字伊實久
堅(小泉)タツ	家事	東京市小石川區戶崎町七〇番地
勝マツ	農業	在郷
勝千代	同	同
明石幸子	同	同
花岡トヨ	同	同

富(吉澤)	タ	ツ	同	同
筑	オ	メ	女中	神戸市神戸區元町二丁目三〇七番地 ク理髮所内 照島直行様方
基	フ	ヂ	農業	在郷
基	マ	ツ	農業	在郷
野上	ウ	メ	家事手傳	兵庫縣武庫郡大庄村濱田崇徳院三六七
濱川(繁山)	マ	ツ	農業	在郷
更(塚本)	タ	カ	同	同
櫻	イ	シ	同	同
季(吉河)	ユ	イ	女工	大阪市港區田中元町一〇一ノ二 野口様方
臺(野口)	か	まつ	同	大阪市港區田中元町一〇一ノ二
備(神田)	タ	カ	農業	在郷
思	ト	キ	同	同
益	ト	ヨ	同	同
有	タ	ツ	同	同

勝(勝田)	ユ	キ	農業	在郷
橋(宮島)	ユ	キ	同	同
有	シ	グ	同	同
永島	マ	ツ	同	同
廻(吉崎)	初・枝		同	同
賦	ス	イ	同	同
稻	オ	メ	同	同

■第十九回卒業(五〇名)昭和四學年度

岩本	政元(故)		大阪市
吉浦	繁雄		内蒙派遣連沼兵團後宮部隊千田部隊
勝(勝本)	玉彦	兵隊	同
重(大瀬)	忠雄	同	同
岡本	一郎(故)		内蒙派遣連沼兵團後宮部隊千田部隊
良(良野)	平次郎	同	同
嵩(岩野)	文夫(故)		同

川(川村)辰彦	園部平	筑富藏	保立田米賀	薫貞一郎	宮崎博	柳元久(故)	土岐敏義	保(中山)常元	薫親一郎	薫利夫	高岡顯三	正岡五十一	小泉松三郎	内田忠雄
會社	兵隊	船員	兵隊	職工	水兵	會社員	兵隊	同	職工	兵隊	船乘	同	職工	船乘
大阪市港區田中元町二丁目一五二番地	佐世保重砲兵聯隊第三中隊第一班	神戸市播磨町松岡汽船會社 第三日清丸	中支派遣稻葉兵團中村部隊	大阪府北河内郡三郷町世木二九〇 若林様方	大日本軍艦加賀第四分隊	大阪市港區石田外村町二ノ一四 櫻井様方	熊本輻重兵第六聯隊第三中隊第四班	尼崎市西灘波昭和通九丁目三四五 東目様方	大阪市此花區櫻島北之町七三番地 津様方	臺灣基隆重砲兵第二中隊第三班內	東京市麴町區丸ノ内海上ビル東洋汽船株式會社福洋丸	大阪市港區辨天町二丁目九番地 清水様方	東京市小石川區戶崎町七〇番地	兵庫縣西宮市本町辰馬汽船株式會社 白濱丸

岩津一二	富崎盛義	村上秀一	園田(山元)ソノ	米澤ハツ	田畑(茂田)ツヤ	崙フヂ(故)	宮(宮本)ミツ	田畑智江子	貴島マツ(故)	大井(吉浦)千代	登チヨ	宮田(秋月)エイ	都ヨシ	安田シゲ
塗粧業	店員	工業學校	家事	同	家事手傳	農業	農業	女工	農業	農業	同	同	女工	農業
東京市豊島區池袋七丁目二〇一〇 岩井様方	神戸市神戸區元町二丁目三〇七オリンビツク理髮所內	大阪市港區北八幡屋三丁目四八ノ一	東京市小石川區戶崎町十三番地	福岡縣戶畑市三六町一丁目	大阪市港區市場通り三丁目一番地	在郷	在郷	神戸市葺合區大日通七丁目一一二 下高様方	在郷	在郷	同	同	尼崎市小田區長洲大門一ノ一	在郷

朝	タケ	農業	在郷
櫻(櫻井)	ミネ	同	同
吉内	アキ	同	同
進	ハツ	同	同
思(高島)	マツ	同	同
丹(三島)	シズエ	家事	大阪市港區石田元町一ノ五七
稻	シツ	農業	在郷
良	マサ	同	同
上督	初子	同	同
卷(岩本)	千代	同	同
高田(泰)	カメ	同	同
若松	シモ	同	同
保(中山)	常作	船乘	長崎市日本郵船株式會社千歲丸
岩	榮	會社	大阪市港區石田神樂町一四ノ二五 篠原様方

■第二十回卒業(四五名)昭和五學年度

泰(泰山)	部仁助	兵隊	滿洲國牡丹江省牡丹江奧村部隊氣付内ヶ島隊 在郷
大畑	源二	船員	東京市麴町區九ノ内國際汽船株式會社 八重丸 在郷
中督	正七	見習工	東京市豊島區池袋町二〇二八番地 岩井方
武田	輝男	鐵工所	尼崎市杭瀬堤外三 小野鐵工所内
開	常美	試驗場勤務	朝鮮慶尙南道晉州驛前慶尙南道農事試驗場
穉(秋月)	龍二		大阪市港區石田吳服町三丁目一〇 明石常積方
明石	正		大阪市港區八幡屋龜町二丁目二四五 思井様方
高山	正三郎	職工	大阪市港區九條通三丁目五五二 小野様方
濱田	徹輔	無職	神戸市灘區都通二丁目一〇九番地 在郷
福山	岩熊	職工	兵庫縣西宮本町辰馬汽船株式會社 悠紀丸
上島	豊助	船乘	熊本工兵第六聯隊第一中隊四班
實	忠成	兵隊	大島郡住用村尋常小學校内
繁山	正八郎	教員	
吉田	尙龍		
臺司	三代二		

福(福島)政彦	三島哲夫	廻(増田)甚増	生 德二	吉本 仲一	堅 文男	高田 マツ	樹本 マツ	福(福島)カネ	田畑 ヨシ	勝(堅)フヂ	磨(稻)イシ	堅山 和子	花岡 ノブ	鼎(金江)キチ
		船乗	會社	農業	農業	同	同	女工	同	農業	同	看護婦	農業	同
大阪市此花區櫻島北之町七四番地		神戸市神戸區明石町明海ビル沙河汽船株式會社遼河丸	大阪市港區石田町一丁目三番地 岡本機械製作所	在郷	同	同	同	大阪市此花區櫻島北之町七四番地	同	在郷	同	同	大阪市旭區新喜多六五 北島醫院内	同

山元 智恵	泰 松枝	李(吉河)カネ	園田(宮田)サキ	柳 ハッコ	香 キク	更(塚本)チヨ	進(小野)ハツ	赤崎 マツ	稻 イシ	直 ヒサ	實 敏	保(保本)トミ	岩崎 チヨ
事務員	農業	同	家事	農業	同	女工	家事	女工	農業	同	同	同	農業
東京市小石川區戸崎町一三	在郷	同	大阪市港區吾妻町一丁目七番地 野中様方	在郷	同	神戸市灘區灘北通二丁目一二一 濱川様方	尼崎市竹谷町二丁目七〇番地 綠察内	神戸市葺合區宮本通五丁目七二番地	在郷	同	同	神戸市灘區灘北通二丁目一二一	在郷

■第二十二回卒業(四三名)昭和六學年度

篠原隆雄	園部榮雄	松崎龍藏	上督忠二	神田良澄	薰安郎	米澤定一郎	求壽一	橋口實	神田眞良	上園幸徳	野上元一郎	進(清田)安宜志	基卯三郎	濱田末照
店員	自動車	休職	農業	農業	會社	休職	鐵工所	農業	會社	大島中學	鐵工所		會社	船員
大阪市港區壽町二丁目二十番地 ニキヤ商店	東京市目黒區中目黒三丁目一〇八五番地	大阪市港區北八幡町一丁目 長岡様方	同	大阪市東區清水谷西ノ町三四二 和田鐵工所 在郷	大阪府西淀川區加島町一二四一ノ二 長一夫方	大阪府此花區櫻島北之町五三番地	大阪府西淀川區九條通リ二丁目六六〇 筥鐵工所内 在郷	大阪府港區伊津部 伊集院様方	兵庫縣武庫郡大庄村濱田崇徳院三六七	大阪府港區辨天町三丁目一番地 淺野製作所内 在郷	東京市麴町區九ビル八階栗林商船會社バナマ丸			

朝高岡トミエ	高岡八重	濱川マサ	保本オメ	茂田ハツ	土岐サキ	内田アキ	上督トヨ	保立久	益田サイ	思田チヨ	岡田イシ	萬政雄	宮本種四郎	村上秀二
同	同	同	同	同	同	同	同	農業	家事手傳	同	同	農業	町工場	市岡中學
同	同	同	同	同	同	同	同	在郷	神戸市葺合區宮本通り五丁目七二番地	同	在郷	鹿兒島縣大島郡早町伊實久	大連市吉野町百番地 平見商會	大阪市港區北八幡屋町二丁目四八ノ一

櫻(櫻井)	ト	ミ	農業	在郷
宮島	ト	ヨ	同	同
良(良野)	ス	エ	同	同
吉園	イ	シ	同	同
忠岡(大畑)	チ	ヨ	同	同
益	シ	ゲ	同	同
松原	マ	ツ	家事手傳	東京市豊島區池袋七丁目二〇一〇 岩井様方
文	マ	サ	農業	在郷
岩津	キ	チ	同	同
三島(盛)	ス	エ	同	東京市小石川區關口町一四五
朝	ア	キ	同	在郷
園田	フ	ミ	同	同
勝	ヨ	シ	農業	同

■第二十二回卒業(四五名)昭和七學年度

松岡 忠雄 鹿兒島高商 鹿兒島市藥師町三九三

岩本	正	吾	鐵工場	横濱市鶴見管澤町二二八 三島方
崑	文	哉	船員	尼崎汽船日海丸
上村	篤	三	船乘	神戸市神戸區京町六八材木商事株式会社 ちた丸
西	盤	會社	同	東京市小石川區戶崎町一三 山元様方
岩崎	禎	智郎	同	東京市
大瀬	實	季	船乘	大阪市港區富島町尼崎汽船 波切丸
勝(勝岡)	慶	彦	同	大阪市富島町尼崎汽船會社 赤城丸
高田	豊	美	同	神戸市神戸區榮町通二丁目四七番地 川崎汽船株式會社 ふろりだ丸
港	武	二	會社事務員	神戸市湊東區相生町五丁目二〇一番屋敷 美代様方
北島	禎	二	工場	尼崎市神渡一六一 平田アパート内
進(大倉)	禎	一	船乘	大阪市港區富島町尼崎汽船 電信丸
薰	八	郎	同	不詳
惠	武	一	會社	大連市若菜町七一番地五ノ十一 大島様方
樹本	政	一	鐵工所	大阪市港區南八幡屋町一丁目一七七一番地 中木方

開	常	美	塗粧業	東京市豊島區池袋七ノ二〇一〇 岩井方
柳	義	貞	會社	大阪市港區千代見町四丁目二番地 長島様方
庸	藤	一	船員	大阪攝陽商船株式會社 淡洲丸
岡	富	哲	店員	大阪市西淀川區加島町一二四一ノ二 長方
福	富	雄	會社	大阪市此花區櫻島北之町七四
吉	澤	カ	農業	在郷
吉	村	ヒ	同	同
田	畑	智	同	同
實	ア	キ	家事手傳	大阪市港區九條通り三ノ五五二 小野様方
勝	本	ヤ	農業	在郷
宮	田	ハ	同	同
橋	マ	ツ	同	同
小	千	代	同	同
安	マ	ツ	同	同
正	ヤ	ヨ	同	同

福(福島)	政	女工	大阪市此花區櫻島北之町七四番地 在郷
吉原	千代	農業	在郷
島崎	チヨ	家事	神戸市葺合區筒井町三丁目三六號
吉内	エイ	農業	在郷
薰	トシ	女工	大阪市此花區櫻島北之町五三 藤田様方
上島	マツ	女工	神戸市灘區都通二丁目一〇九番地
川畑	秋子	農業	在郷
藤田	千代	女工	大阪市此花區櫻島北之町五三
勝(岩津セツ)	マツ	同	大阪市港區八幡屋龜町二丁目二四五 思井様方
鼎(金江)	浪子	農業	在郷
米澤	シズ	同	同
吉岡	須磨	同	同
岩野	初	同	同
萬	モト	同	鹿兒島縣大島郡早町伊實久
伊藤	いわづる	同	鹿兒島縣大島郡喜界村坂嶺

坂	常	新	農業	鹿兒島縣大島郡早町村佐手久
赤崎	チ	ヨ	同	在郷
吉塚	シ	ゲ	同	同
實三津	枝		同	同
穂(秋月)	松		同	同
明石	朝子		同	同
崑(永野)	タケ		同	同
都	チ	ヨ	同	同
岩野	末子		同	同
倉園	數子		同	同
野上	マツ		家事手傳	兵庫縣武庫郡大庄村濟田崇徳院三六七
酒(大島)	マツ		農業	在郷
實	ト	ヨ	同	同
安田	セ	ン	同	同
泰次	枝		家事	神戸市灘區灘北通二丁目二二一ノ一番地 岡様方

高岡	美	農業	在郷
吉田	美智能	勉學	鹿兒島市
曆本(野村)	安子	家事	東京市
更(塚本)	ト	ミ	農業
野島	カ	ネ	同
野田	ウ	メ	奈良縣山邊郡朝和村字長柄 奥田廣二郎様方
清田	安子		農業
保崎	ア	チャ	同
薰	タ	ケ	同
南	マ	ン	同
明石	加須江		同

大阪市港區吳服町三丁目二〇 明石方

■第二十四回卒業(四三名)昭和九學年度

神戸市葺合區筒井町三ノ三四〇 泰山様方

中山 賢志 農業 在郷

朝 富吉(故)

吉崎喜三郎 農業 大阪市港區石田木屋町三丁目一三九番地 碓山様方
 大畑廣次 農業 在郷
 上野篤義 見習生 東京市豊島區池袋七丁目二〇一〇 岩井様方
 稻野馨 工場 大阪市港區北境川町一丁目二一 府川様方
 吉野登一 鉛版店員 東京市小石川區關口町一四五 盛様方
 上園田文雄 盛鉛版所 東京市小石川區關口町一四五番地
 筑富雄 中學 鹿兒島市西田町南四七 向井方
 思豐二 農業 在郷
 内田忠三 農業 神戸市葺合區筒井町三丁目八〇番ノ二
 島崎廣則 船乗ノ目的 大阪市港區三先町三丁目九九番地 濱乃様方
 岩尾忠友 農業 在郷
 田畑幸之進 農業 同
 吉岡守一郎 農業 同
 宮島科正 農業 同
 盛照雄 農業 同

北川定市 船乗 大阪市住吉區北加賀屋町浪速船渠株式會社 第二白銀丸
 柳貞久 船員 御用船
 光井美代喜 同 神戸市神戸區浪花町三七番地 太平洋海運株式會社 高榮丸
 篠原融 同 神戸市神戸區明石町三十一番地 坂井汽船株式會社 山東丸
 赤崎金次郎 會社 大阪市港區南八幡屋町一丁目一七五 藤原様方
 藤田エイ 女工 大阪市此花區櫻島北之町五三番地
 野口アキ 家事 大阪市港區田中元町一〇一ノ二
 基岡千代子 農業 在郷
 李シズエ 女工 大阪市港區田中元町一〇一ノ二 野口様方
 岩ウメ 農業 在郷
 松崎エミ 同 同
 高田エイ 同 同
 今家スガ(故) 同 同
 尾野廣子 同 同
 花岡トキ 同 同

竹元	川畑	吉塚	守内	勝(勝本)	備	宮田	保本	保井	照島	中村	濱田	篠原	直元
ミツエ	ツエ	セツエ	チャ	キヨ	ひで子	ツネ子	エイ	ルリ	ヒサ	政次郎	次輔	隆則	三郎
農業	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
在郷	同	同	同	同	同	同	同	同	同	在郷	在郷	在郷	在郷

■第二十五回卒業(五三名)昭和十學年度

大阪府港區八幡屋龜町二丁目二四五 思井様方
 大阪府港區石田元町二丁目一五二 川村様方
 高等科二年在學

要	上村	西	稻	堅	川畑	關	南	茂	今	明	高	正	野	吉
繁男	繁森	秀敏	祐義	文一郎	推司	豐忠	政文	田久夫	家初雄	石徳次	木治逸	木歳賀	島茂久	山次雄
高等二年	同	中學	高	同	同	高等二年	同	同	職工	鹿兒島中學	筑港營業所	印刷	見習	同
鹿兒島市藥師町四二九	在郷	鹿兒島市	大阪市此花區櫻島北之町五三 藤田様方	在郷	大阪府港區九條通三丁目五五二 小野方	同	同	同	東京市豊島區池袋町七丁目二〇一〇 岩井様方	鹿兒島市西田町 山内様方	大阪府港區三條通三丁目三一番地	東京市小石川區戸崎町五三番地 山元方	神戸市神戸區元町二丁目三〇七番地オリンピック理髮所	同

鼎 (金江) 美 代	薰 ス エ	橋 ジ ロ ウ	米 澤 テ イ	大 瀬 エ イ	金 井 千 代	盛 岡 タ ツ	米 澤 ア イ	文 テ ル	小 田 満 江	小 野 キ ヨ	薰 利 枝	吉 本 タ カ	田 畑 三 枝	上 督 マ ツ
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	家事
同	同	同	同	同	同	同	同	同	在郷	同	同	同	同	在郷

勝 本 キ ミ	弘 前 エ イ	山 本 マ ツ	薰 ミ シ	勝 田 シ グ	柳 セ キ	坂 サ キ	吉 岡 數 枝	益 繁 彦	秋 月 米 造	花 岡 茂 則	泰 山 嘉 忠	花 岡 富 次	濱 川 濱 成	大 島 壯 英
同	同	同	同	同	同	同	同	同	家事	見習生	同	同	同	見習
同	同	同	同	同	同	同	同	同	在郷	東京市小石川區戸崎町十三番地 山元方	同	同	同	大連市西通り四ノ七 中央ビルホテル

上園	岡本	塚基	良	高濱	繁山	守内	上野	保崎	花岡	筑富	池田	岩野	上村
ヒロ	石松	エ	英	行	徳茂	悦造	國次	武久	武二	富美	剛造	勇	與助
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	家事
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	在郷

筑安	朝山	高進	尾野	岩崎	高岡	永野	都	中山	櫻井	櫻	增田	前田
元三郎	繁富	敏美	正三	廣一	顯輝	徳三郎	豐文	常次郎	トスエ	イシ	セイ	フサ
同	同	同	同	同	同	同	同	家事	同	同	同	家事
同	同	同	同	同	同	同	同	在郷	同	同	同	在郷

■第二十六回卒業(四三)昭和十一學年度

實田マツエ	三島垣子	開 ^ワ 百合子	實田百合子	勝田邦子	豊岡梅子	丹 ^ヨ シ	益田 ^ヨ シ	金江 ^マ サ	登 ^フ サ	北川 ^ヨ シ	櫻 ^エ イ	塚 ^タ ケ	大倉 ^テ イ	備 ^マ ツ子
高等科	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
在郷	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

博喜代治	李 ^登 榮	盛岡平次	北 ^彌 次郎	坂 ^榮 次郎	篠原 ^尙 英	實 ^國 助	岩崎 ^美 江	赤崎 ^イ シ	中 ^督 美枝	契 ^(津田) 元子	柳 ^エ イ	勝本 ^カ メ	岡 ^タ ツエ	西 ^エ イ
高等科	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
在郷	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

鹿兒島縣大島郡早町村佐手久

田畑	サヨ	高等科	在郷
保井	はるの	同	同
鼎	ナスミ	同	同
曆本	壽野	同	同
直	スエ	同	同
岩	ヨシ	小学校	大阪市西淀川區加島町一四二月野様方
林	エミ		
明石	初美		鹿兒島市西田町 山内様方

第二十八回昭和十四年三月卒業生以下ハ「字史」其の二
の第二卷、三卷、以下ニ載録サルモノナリ

(十) 島 歌

- 一、新年の祝歌(イ) 明けて初年に床の前見れば、餅は三重密柑重ね(ロ) 年々の御正月待ちや待つれども御身が年私の年寄らすシヌキ(ハ) 松の下枝に朝寝する鳥や、羽に露ためて飛びの美しさ
- 二、年の祝歌(イ) 明けて初年に床の前見れば、龜に歌させ鶴は舞ゆり(ロ) 六十一歳までは殿様の御奉公御杖ついで行もれ哀れ可愛(ハ) 今の吉日に御祝初めれば、これからの先や御祝ばかり
- 三、婚禮の祝歌(イ) 今日の吉日に御祝初めれば、これから先御祝ばかり(ロ) 大木伐ち後や若木の生え立ちゆん、親主後継ぎゆそ初の御子孫(ハ) 此の屋敷庭に綻びをる花は、祝事きけば笑て咲きゆり
- 四、新築の祝歌(イ) 新屋敷こので新の普請をばすみて(させて)、これからの先や御祝ばかり(ロ) 石や柱載て柱や桁載て桁やキチ載て、キチや茅載めて捧と繩で結すてとまる
- 五、出生(出産)の祝歌(イ) カナゲの(今までの)中は何時か〜と思て、今日の吉日にワーナガ(私が)胸ウテツチャは(ロ) 霜月と師走は霜立ちのしげさ、十七、八のメーラベ(女)しぬぎしげさ(ハ) 此屋地はい、ど〜と、米庫前なて床や後に
- 六、一般の祝歌(イ) 今日ホコラシヤ何時よりもまさり、何時も今日ごとあらしたばれ
- 七、船出の歌(イ) 送れさ、送れ濱邊まで送れ、濱じよ乗出せば潮風まかせ(ロ) 船乗らは船底に乗るな、

船の上軸に乗とはらせ(ハ)船いじやし(出して)三日に雨風の吹かば、雨はワ(私の)目涙風は大呼吸
八、黒だんど節(イ)一本杉くわなごしもながらむきろしもきら、む一本杉くわうれも切らんむん、すみつ
ぼすみさしばんしよ金(曲尺)あればうれも切らすむん(ロ)花の咲きゆりよニギヤ山はな(頂)なんに千年
も咲ち見らぬ花の咲きゆり、なをそ(移殖)くよ明けての二三月ワキヤ家の(庭)なんなをそく

九、いゆんめやんめ節(イ)きにゆ(昨日)とをつて(一昨日)の蒸汽船のはりきよらさ、直心主と謙翠主とか
乗とりちやぎさ(ロ)泣くな船長船の難破たんち泣くな船長、大和(内地)上れば二隻引かさう

十、うんにやだる節(イ)うんにやだるや馬鹿者じや乳飲兒は捨て、殿の安なりが赤木名はいくらて(ロ)
うんにやだると直宜志主のまんこいする夜、冬の夜のたなげ(二倍)あらしたば

十一、うけままんじよ節(イ)西の山ウガミシはな(先)から御米船の水舟ナンタバチャ成つたさうな、船の
人や命の損殿様は米の損(ロ)上る太陽の前に御線香二本立てとて、山川觀音九二度漕ぎすめて(させて)
たばれ(ハ)トビユ一の沖から白帆やまきやくきゆうそ、山川出帆か鹿兒島出帆か

十一、朝花、俊良節(イ)あげておけばなりゆめさげてきゆばなりめむ、東方のマスクナが引ちどないゆる
(註)これはマスクナの三味線の上手をうつたものである。

◎軍人送りの歌 いなでさそがれて御用旅にいもし、往きもどれ、もどれいつの上から

◆年の祝歌 ○ちとせふる松のみどり葉の下に、龜ぬ歌しれば鶴ぬ舞ゆり ○三ぶしゆう盛に三つ重ねそへ

て、壽の祝はておせろ ○六十重ねれば百二十ぬお年、かけふしや召しよし島ぬがね ○命かふ願へば
石の身の如く、千年なるまで子孫そろて

◆新年祝歌 ○あらたまる年に炭と昆布祝て、親むつれ子むつれかふな祝 ○元日の朝床向かてみれば、裏
白とユヅルかざりきゆらさ ○白髪年ゆりや床の前にゐして、なし子歌うとて孫をどる ○あはそ石垣には
ゆるいそかぢら、今ど叔父(叔母)とめてはをて來をた ○しらが年方や床ぬ前に祝て、はぬや下さがてうが
でおしよろ

◆家の新築祝歌 ○新屋敷こので黄金柱うえて、百人がやうるちふちやる美らさ ○山ぬ山かしぎ木しじ柱
選で、大工ぬことがねぬつくりきゆらさ、◆人の家庭を祝福する歌 ○池ぬ上ぬ殿内あとや森ぐすく、前ぬ
高山に鶴ぬ舞ゆり ○庭ぬ窪たまり雨降りばたまる、降らだなぬだまり殿内そしら ○殿内あみしやれや果
報な生れやし、今年代や一倉來年は三倉 ○あみしやれが上やおさかづき舞ゆり、そしらが上やお役舞ゆり
◆其の他の祝宴歌 ○今日ぬほこらしや物にたとへれば、天ぬ白雲ば取たる如に ○あがれからみ舟黄金つ
みめして、黄金つみながらうしゆけおせろ ○ひのき膳つきて黄金椀あして、金ぬ箸取りやは召しよち絶れ
○西ぬ海ぬありて東ぬ海ぬありて、ましゆやんちゆまかて、召しよちたばれ

◆婚禮祝歌 1、婿方の送り人の歌ふもの ○今日のおさかづきゆはて、千石のたからもろし給
れ ○今日のおさかづきゆはて、にやからこのさきやお祝ばかり 2、嫁方の送人の歌ふもの

○今おせるおめにや笏のつぼみ、枝むちゆるうちやそしらのむ ○ふみあてする石に黄金花さかし、にや
 からの先やお祝ばかり、³、媒介者や來客の歌ふもの ○今日のよから日にめおとまぐはひて巢ごもりぬ
 榮へつるのことに ○親二人中に蕾どたる花ぬ、今日ぬよから日に咲ちゆりきゆらさ ○とよむあがる日の
 榮人やてど、けふのお祝にむかへきようた ○とよむあがる日の榮を人あてど、今日の吉日に送てきようた
 教訓歌 ○玉黄金親やなしどなさりゆる、きむたましつりでなしやならぬ ○カマクラぬ花や手の先にそめ
 ろ、親のゆせごとや胸にそめ ○下手からどならてすぐれてやいきゆる、すぐりらぬ思てしあんとるな ○
 螢火のかげに黒筆どならて、あじが世むたちゆり吾世むたちゆり ○押しかくそしりば天と地や鏡、影うつ
 そと思へばおはつかしやぬ ○蓮の花さきや泥をまじさきゆり、うれ見しやめこがね魂入れよ ○殿内あみ
 しやれや果報な生れやし、今年代や一倉來年や三倉 ○あみしやれが上やおさかづき舞ゆり、そしられ(主
 人)が上やお役舞ゆり ○たまぐがね親や、なしどなさりゆる、きもたましつれて、なしやならぬ ○ほた
 る火のかげに黒筆ば習て、あじ(按司)が世も立ちゆり吾世も立ちゆり ○はすの花咲きや泥染まじ咲きゆ
 り、うれ見しやめこがね魂入れよ ○りんきする女夏はびら心、とほしびにうばて吾が身とゆり ○縁とた
 まくがねぬけば他人どやし、うちふらひ(親しい)ぬけばきよらく ○櫓かじ定めてど舟や走らす、
 寸法はじらすな肝ぬ手細 ○押しかくしをれば天と地や鏡、影うつすと思はおはつかしやぬ ○吾身摘でみ
 しど他人の上や知りゆる、無理するな浮世情けばかり ○たるも他人の上や秋の夜のさやか、吾身ぬよしあ

しや暗路心 ○誠ある人のあとやいつまでも、匂ひふくくと風のかばさ(かんばしい) ○世間山川や丸木
 橋心、かにも危ぶなさぬ渡てみれば ○そしられも好かぬ、ほめられもすかぬ、浮世なだやしく渡りぶしや
 ぬ ○花なれば匂ひ枝もちはいらぬ、なり振りやいらぬ人は心 ○山ぬ木の高さ風にくまれり、肝高き持
 てばよそがにくむ 月に願立て、星に願立てて、二人親がなし百世ねがほ ○うき世かり島にいちで居られ
 りゆめ、なさけあれよ加那かりぬ世さめ ○虎の繪は掛けて柳花生けて、旅ぬいきもどろお祝ばかり ○旅
 や濱やどり草枕心、ねても忘ららぬ吾家ぬおそば ○見ぶしやかなしや吾しまぬ友達んきや、それより見ぶ
 しや二三月百合の花小花 ○旅ぬ下り上り十日と思は二十日、いちがしま戻て手はぎぬばそ ○吾ぬやこの
 島に親はるじ居らぬわぬ、愛さしゆん人ど吾親はるじ ○島や何處ぬ島もかわりぎや無らぬ、水にひかされ
 て言葉かはろ ○いつも今日のごとに、あれば玉くがね、のてにこのしき(惱み)吾ぬやとりゆり ○をとこ
 身のしのきしのきてに云へば、吾が取りゆるしのき取らちみ欲しや ○互に思ごとや道に打ち散らち、よそ
 に現はれてかくし苦しや ○よそに現はれてからかくされめ、互に親知れて染みやまさり ○年やよた
 りとも若さまの心、いつも忘れらぬ十七八 ○十七八頃や夜の暮れど待ちゆる、いちが夜のくれて吾自由な
 りゆか ○をなご生れとて歌知らぬをなご、物にたとへればしむる卵(くされ卵) ○あかときの鶏や羽た、
 し鳴きゆり、きもさげぬ加那や胸た、ち泣きゆり ○白髪年かたのおとぎなるものや、あかときの鶏とお茶
 と煙草 ○夜あけ白雲の行き分れ見れば、加那と行き分れあれが如に ○思てさへ居れば後先となりゆる、

節や水車めぐり會ゆり ○幾ちくらべても氣の毒となりゆる元に似る花ひとつも無らぬ ○元ど元なりゆるすらぬ元なりゆめ、すらぬ元なりゆし根なしかじら ○さても玉くがねいらぬ心配するな、よそにかかはりゆるきずやあらぬ ○そてつ葉ぬ露やほねからどはゆる、きもちやげぬわなだ吾胸はゆり(流れる) ○夫欲しやも一とき妻欲しやも一とき、あやはじき(入墨)欲しやや命まぎり ○吾ぬやうらきりて濱下りて見れば、白波や立ちゆり吾加那見りやらぬ ○朝寝しち朝枕元見れば、わが置かぬ花ぬ咲くが不思議 ○深山奥山に朝寝しゆる鳥くわ、露におさはれ(襲はれ)て飛びやならぬ ○花や元あれば二度返てさきゆり二度返て咲かぬ汝花吾花 ○六月ぬ日でり山かげにたよる、うちとけてからやなきやにたよる ○年やよていきゆり先や定まらで、流れ海に浮きゆる舟の如に ○一番ぬとりくわば二番ぬとりくわち思て、きもちやげの加那ば夜中もどし ○あら馬乗りならて小馬乗られんにや、加那と染みならて他人と染まれんにや ○逃げ馬ちば逃げ馬主や定まらぬ、主つかぬ汝きや家定め苦しや ○雨降らせ降らせ我が庭に降らせ、愛人が涙と思て出ちてぬれら ○いもしやん人と眞實やらめ、石原ふみ切ちいもしやん人ど、まことやらぬ ○まねく汝きやば拜で、今うがめばいつ頃拜みゆかや ○拜まん人む拜で知りゆり、命長めて居れば、拜まん人む拜で知りゆり ○はつとんちや自由なりゆめ、吾んや夫持ちむんぬ、はつとんちや自由なりゆめ ○いもらん愛人待たんよりま、二十二三夜のお月様待ちやまさり ○愛しやん人やちゆりく、島中七間切に愛しやん人やちゆりく ○吾二人どや實久ぬ坊やんめ、子生し孫見るがれ、吾二人どや實久ぬ坊やんめ ○くるみ(黒

雲)ぬ目にさがてあはれ、吾ん愛人しやあん雲くわぬ下どく ○愛しやる人やにはとりたまご、吾ぬや親どりなて、朝夕うさとりふしやぬ ○通ゆだるやんこし道くわ、今やぬりぬめて草ぬめて歩きやならぬ ○やまとん人と縁結ぶなよ、本帆巻きあげればかちめ所無んどく ○吹き流しよ南の風やまと山川がれ吹き流せよ南の風 ○島なぐれやおとしゆなよ、こまや餘所島ちやんが、島なぐれや落しゆなよ ○やちやば(野茶坊)ちばやちやばしま(島)ぬ無ぬやちやば、やちやばきもしやげさ山ぬそだち ○野茶坊ふぐり(かくし所)やみしや(土)ふぐりうりがマーシ(揮)や檜木ぬ皮 ○長雨きりあがれば沖やとれくと沖やとれくと七島見ゆり ○泣くななげくな金久ぬ俊良主とじぬみの加那やちもり(運命)ありよてど、にがうしゆ(苦潮)やみしよしやる ○浦々ぬがちんぐわうまち見ちれば浮きやがりゆり、島々のねせんきや、みわらべ見ちれば浮きやがりゆり ○節子ぬとみが名瀬ぬランカン橋あるけば、店々ぬてでんきややさんによ(計算)まちげ ○舟のともに啼きゆる白鳥や、白鳥やあらぬをなり神がなし ○親はがれ鳥くわ親ふしやち啼きゆりわきやも親はがれ親ふしやち泣きゆり ○かんつめあぐくわが云しやることやたかちちしがとて岩加那やくめにおくられふしやたんど ○かんつめあぐくわがあしや死のしやん夜、久慈下り口ぬ佐念山なんて、提灯うまぬあがりゆたんむんど ○昨夜がれ遊だるかんつめあぐくわ翌日が夜なたと、後生が道み袖振りゆり ○岩加那やくめが云しやることやかんつめ診ちやる醫者どんや、生きらしゆん薬や持ちもたらむんか ○死ぢやる人やしかたぬありよんな、線香と石やきばりんしよれ岩加那やくめ ○かなしやるやくめに水盛る時

や、金ぶち茶碗に水やはりこ(走り川)の中ぬこみす ○はぐさんやくめに水盛る時やんばる茶碗に水や泥田のたまり水 ○砂糖やならんど黍汁煎じらんば七色變らんば砂糖やならんど、内里めらべんきや四十八縁た、んばやけやたたんど ○軍艦ぬかかてあしけん沖から田檢沖がれ、軍艦ぬか、て今里、志戸勘、名音、戸圓、ちゆやうり見りが ○走れよ舟くわ白帆まきや、はれよ舟くわ、戻しなりゆんにや、黒潮のり出し戻しなりゆんにや ○處帯やつぶれ關牛持ちゆて、米豆食ましば、處帯やつぶれ上馬ば持ちゆて、官員乘しれば、うれよんまつぶれ ○いゆんめやんめ、目鼻ば切れたる、いゆんめやんめ、なばん瘡出じとて、からしゆかで ○あんまとじゆう、氣の毒考へそんな、あんまとじゆう米取て豆取てみしよらしゆんど ○行きゆんにや加那わきやこと、忘れて行きやんにや加那、うつたちやうつたちやが、行きぐるしや ○鳴きゆるとりくわ、立神ぬ沖なんて鳴きゆるとりくわ、わきや加那やくめが生きまふり ○わらべとじかめて、肝ゆるしおくな、よかり馬ぬ手綱ゆるしおくな ○黒かね火箸やむじ切り、さね切りなりゆり、かなしやん縁ぐわぬ切りがなりゆめ ○あがれぬ雲くわしら、あがて、しきゆり、うすみんしよれ加那しんきや、語りそしいもれ ○かどくなべかなや、いきやしやる生れしゆてが親に、水くまし、みしゆて溶める ○かどくなべかなが死じやる聲きけば三日や、ミキ作て一七日あそぼ ○かどく濱先に這ゆる、磯かづら這ひ先や、ねらぬ天にかへろ ○てだぬうてまぐれに啼しゆんからすや、加那が上か吾上か時や物識りにうらねしめたと加那が上もあらん吾上もあらんちやんな ○おまくらよ、お枕物云ふなよお枕、加那がこと吾こと云ふな

まくら ○おまくらぬ物云んためなれば、くだめしゆん石(踏足)ぬ物いやだなおきゆめ ○いまのかせくもや、むらが上に立ちゆり、わしがとのじよやおにしはら立ちゆり ○行こ行こにすれば、おもかげぬ、たちゆり、居ろ居ろにすればぎりぬたたじ ○眞白しら濱に踊りするめらべ、色や白々と眞黒かしら ○西からどいもんにや東からどいもんにや、汝きやが生れ鳥教して給れ ○西からもあらん東からもあらん龍郷、安木屋場、ぬ、石ぬ穴から ○天川の池に遊ぶおし鳥の、おもひ羽のちぎり、よそや知らぬ ○こん殿内うちや庭廣さやし、庭片隅にて祝ておせろ ○踊らだな居れば鳥や山なりゆり、でわきやほり立てて踊てあそぼ ○八月やなりゆり振り袖やねらじ、あみしやれがどみす借らしたばれ ○長い刀は差しよがござる後ろ下りの前あがり ○さんだ播け、大根種おろせ、育てて野菜さかな ○里と話せば枕はいらぬ互ひちがひの腕まくら ○とりはうとたかまだ夜は夜中、心靜にねておざれ ○何ほほれてもお庭そてつ垣の外から見ただばかり ○すいたすかんは目さきでわかる、好いた目元は糸目元 ○五尺手拭になまへば染めて、里がいもれば里えしやく ○あはぬ手拭ば合はそにすれば、夜の夜がらす啼きあかそ ○舟ばはじよけてみわらべ乗せて、思ひねせきやにかち取らそ ○新造はぎ浮けて下ろして見れば、沖のかもめの浮きすがた ○舟は出そ、夜あけに出そ、とまり入口瀬がござる ○沖の渡中にサヨ松立てて、上り下りの船をまつ ○打てば打ちぶし、ややよなりし、ゆるちちみ(太鼓)よればよりぶしや、やかながおそぼ ○八月の節やより戻り、かながとし、わとしようぬしのみ ○しゆんかねわがふしや、わがこなしおけば、三味線むちいも

れちきておせろ ○夜中三味線や醫者より、もまざりねなしもる加那がうすでききゆり ○夜中三つ星や見しやる人や居らぬ、わんが加那しので、いきんど見しやる ○ききやや小野津とはや、むちやかな、青さのりはぎにいらめや、むちやかな ○ききやや大間切大島七間切とくえらぶ越へて那覇の地うち ○ちじゆりや濱ちじゆりや鳴くな濱千鳥鳴、けばおもかげぬ、まさて立ちゆり ○ちじゆりや濱千じゆりや、ぬぐわ汝や鳴きゆる、阿母おもかげぬ立ちど鳴きゆる ○あんま面影やときんくと立ちゆる、愛人が面影や朝ま夕ま立ちゆり ○あしゆて歌しれば、ももたるしややし、でわきやほり立てて踊るとよも ○うたひますくはばかりながら、うたのあやまりごめんなされ ○をどりするなら早よ出てをどれ、をどりはぐれてをどららぬ ○をどりするなら三十までをどれ、三十こゆらば子がをどる ○立てばしやくやくすはればぼたん、あゆみすがたはゆりの花 ○十七八ごろあをばの煙草、はやくとらんと虫がつく ○千兩萬兩の金にはほれぬ、わたしあなたの氣にほれる ○おもて通へば千里も一里、あはで戻れば元の千里 ○様とわたしはすじりの水よ、すればする程こゆる ○思てはまれば、どろ田の水も、のめばかんろのあじがする ○うぐあすさへも親と分れて山登る ○粟ぬ摺られりゆめ、米と摺られりゆる、稲すりすりよ、穀選りくよ ○きばて摺れく、をなりんきや一升や、かみらしゆんど、稲すりくよ、あらゆりくよ ○何石の米も摺てど減ならしゆんど、稲すりくよ、あらゆりくよ ○天に橋かけて上ていちやたれば、加那がことおもて下りてきやをて ○うまれ稲がなし鎌かけて見ふしや、高さあふし足かけみふしや ○月見れば昔變ら

すに、照りゆり、おほへすに寄たる年ぬうらめしや ○なまど笑はりゆるがわが咲かば見よれ、水の上に咲ちやる花の如に ○思て自由ならぬかくぬとり心、いちががこあけて自由なちゆか ○あが遠ぬ島に吾親一人置きば、よねなりば見ばしや、ちやうみさがて、○後生に居るわ親の欲しやものや何か、水ぬはちくと花ぬみ枝 ○黒潮海だまり島抱ちど染どる何がよ思里やわぬと染まぬ ○天の川の川今や南と北と、夜の明き次第や西の東 ○天の群星や他所の上ち照ゆい、黄金三つ星や吾上ち照ゆい ○他人事云はしゆ胸中の不足、酒滿たぬ瓶の鳴ゆんあなみ ○北ぬ風吹かは眞南ぬあふし枕、眞南ぬ風吹かは西べぬあふし枕 ○四季口説 (一)さてもめでたや新玉の、春は心も若返て、四方の山邊も花さかり、のどかなるよの、春を告ぐる谷のうぐひす (二)夏は岩まをつたへ來て、瀧つふもとに立ちよれば、暑さ忘れて面白や、風もすすしく袖にかよひて、夏もよそなる山の下風 (三)秋は卯花がうち招く、そとのまがきに咲く菊の、花の色色妙らしや、錦さらさと思ふばかりに、秋の野原は、千草いろめく (四)冬はあられの音そへて、のきばの梅のはつ花は、色香も深くみてあかぬ、花か雪かといかで見わけむ、雪のふる枝にさくやこの花 ○のほり口説き (一)旅の出立ち、観音堂千手観音伏しおがて、黄金酌とてたち別れ (二)神にふる露おしはらひ、大道松原あゆみ行け、行けば八幡崇元寺 (三)美榮地たかはし打ち渡で、袖をつらねて諸人の行くも歸るも中のはし (四)沖のそばまで親子兄弟伴れて、別ゆる旅衣は、そでとそでとに露なみだ (五)船のともづなとくくと船子いさめて眞帆引けば、風はまともに午未 (六)またもめぐり逢ふ、御縁とて、招く

扇子、や三重城、斬波みさきも後に見て (七)伊平屋渡立波おしそへて、道の島々見渡せば、七島渡中やなだ安く (八)立つる煙は硫黄ヶ島佐多岬にはい並でエイ、あれに見ゆるは御開闢富士に見まがふさくら島

愛國行進曲

(一)見よ東海の空明けて旭日高く輝けば天地の正氣潑刺と希望は躍る大八洲 (二)お、清朗の朝雲に聳ゆる富士の姿こそ金甌無缺搖ぎなき我が日本の誇なれ (三)起て一系の大君を光と永久に戴きて臣民我等皆共に御稜威に副はん大使命 (四)往け八紘を宇となし四海の人を導きて正しき平和うち建てん理想は花と咲き薫る (五)いま幾度か我が上に試練の嵐降るとも斷乎と守れその正義進まん道は一つのみ (六)あ、悠遠の神代より轟く歩調うけつぎて大行進の往く彼方皇國つねに榮あれ

日の丸行進曲

(一)母の背中にちさい手で振つたあの日の丸の遠いほのかな思出が胸に燃えたつ愛國の血潮の中にまだ残る (二)梅に櫻にまだ菊にいつも掲げた日の丸の光仰いだ故郷の家忠と孝とをその門で誓つて伸びた健男兒 (三)ひとりの姉が嫁ぐ宵買つたばかりの日の丸を運ぶ箆の抽斗へ母が納めた感激を今も思へば眼がうるむ (四)去年の秋よつはものに召出されて日の丸を敵の城頭高々と一番乗りうち立てた手柄はためく勝ちいくさ (五)永久に榮える日本の國の章の日の丸が光そ、げばはてもない地球の上に朝が来る平和かややく朝が来る

(十一) 我が家の系圖

コレハ各自ノ家ノ系圖ヲ記入スル用紙デ
是非子孫ノタメニ記入シマセウ

